

# 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団

## 令和8年度事業計画

(令和8年4月1日から令和9年3月31日まで)

### 【令和8年度経営の基本的考え方】

令和8年度は第4期指定管理の1年目にあたります。これまでの実績も踏まえつつ、今後10年間にわたり博物館等施設を管理・運営し、様々な事業を展開していくための新たな基礎を築く1年ととらえ、指定管理提案書で掲げた「5館一体」「再構築」「裾野の拡大」をキーワードに取り組みます。各施設においては、「5館一体」の推進を念頭に、他施設との連携による事業内容の充実や、人的・物的資源、ノウハウの共有を図ります。また、「再構築」を意識し、過去にとらわれることなく必要性を見極め、最適な手法を選択することにより、効率的・効果的な施設運営や事業実施につなげます。さらに、博物館の「裾野を拡大」し、運営に必要な強固な基盤を、市民をはじめとした多様な利用者やステークホルダーとともに築いていけるよう取り組みます。

具体的に、令和8年度には「昭和100年」をテーマにした企画展等事業を複数施設の連携により実施するほか、各施設の事業や調査・研究への他施設学芸員の協力等、施設間連携を強化していきます。また、財団内のみならず、他博物館施設や大学等とも共同調査研究等で協力・連携を進め、その成果を企画展等を通じ発表していきます。

収蔵資料のデジタルアーカイブ化にも引き続き取り組み、これまでに構築した収蔵資料データベースのさらなる充実を図るとともに、公開用ウェブサイトの運用により広く情報を公開し、資料活用機会を増やすことで「横浜の歴史」の普及につなげます。

開港資料館においては、令和7年に終了した文化観光拠点計画で新たに整備した展示室やバリアフリーデッキ等を活用し、横浜港周辺の歴史を伝えるとともに横浜内外からの集客に向けた事業を展開することで、収益力の向上にもつなげていきます。

様々な事業の実施にあたっては、国や民間団体の補助金、助成金の獲得に加え、クラウドファンディング等による協賛金や、歴史博物館の「レキハク・パートナーズ」等による個人、法人からの寄附金受入を積極的にすすめ財源確保に努めるとともに、自主財源比率の向上を図ります。

各事業の推進には、令和8年度からリニューアルして運用する財団のホームページを最大限活用するほか、SNS、動画等のデジタルツールを積極的に活用し、財団全体で効果的・戦略的な広報に取り組みます。

老朽化した施設が多いなか、施設管理にあたっては、点検等を通じて状態の把握に努めるとともに、大規模修繕が必要な施設、設備については、引き続き、横浜市への要望や提案を行っていきます。

組織運営については、人材育成、組織力強化を目的とした研修を充実させるとともに、より効率的な執行体制づくりに向けた検討もすすめていきます。

財団が将来にわたって市民の期待に応え、その役割を果たしていくため、これまで蓄積してきた知恵と経験を生かしつつ、令和8年度も職員一丸となって取り組んでいきます。

## 【令和8年度経営における重点取組】

### ■施設間連携の強化

- ・施設連携による企画展等事業の実施
- ・調査、研究における施設連携の推進
- ・委託の一元化による効率的な施設運営

### ■博物館のデジタル活用推進

- ・資料のデジタルアーカイブ化とデータ公開による活用
- ・展示解説、講演会動画等のアーカイブ配信

### ■文化観光拠点としての開港資料館の活用

- ・新規来館者獲得のための集客事業の実施
- ・エリア内施設間連携による効果的な事業の実施
- ・計画期間中の取組や新規整備エリア等を活用した新たな収益事業の構築

### ■効果的な広報等による集客力、収益力強化

- ・財団全体での戦略的な広報の実施
- ・リニューアルした財団ホームページを活用した情報発信
- ・SNS、動画等、デジタルツールの積極的活用

### ■外部資金の積極的獲得

- ・事業推進に寄与する国等補助金、協賛金、寄付金等の獲得
- ・収益事業、自主事業実施による財源確保
- ・寄附制度広報による寄附受入と新たな寄附制度の検討

### ■地域、学校連携の強化

- ・地域や関係団体と協働した事業の実施
- ・学芸員・エドューケーターによる学校来館対応、訪問授業、出張講座等の実施
- ・授業の補助教材となる動画コンテンツ等の学校への周知、活用

### ■安全・安心な施設管理・運営

- ・点検実施と適時的確な施設修繕対応
- ・施設ごとの危機管理マニュアルに基づく運用
- ・老朽化した施設・設備等の大規模修繕について教育委員会と連携して対応
- ・所蔵文化財等の被災対策を含めた収蔵庫の増設検討

### ■職員研修の充実と職場環境の効率化

- ・職位に応じた研修、実務研修等の計画的な研修実施
- ・情報システムの活用による働きやすい環境整備
- ・効率的な執行体制づくりの検討

## 参考：法人設立趣旨(概略)

### ■目的

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団は、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管及び公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を行い、先人たちのあゆみや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び、市民文化の発展に寄与します。

### ■基本方針

- ・法人は、上記の目的に基づき、指定管理事業、埋蔵文化財センターや史跡管理などの文化財業務委託事業、市史資料委託事業、組織管理運営を担う本部事業に一体的に取り組みます。
- ・文化財行政の一翼として、これまで果たしてきた役割を着実に継続していきます。
- ・横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保存、保護に一体的・継続的に取り組みます。また、埋蔵文化財の発掘を通し、遺跡や遺物の調査、研究、保存、保護に努めます。
- ・文化財や歴史資料を活用し、調査・研究の成果を広く市民に発信しながら普及啓発に努めます。また、歴史資料の閲覧、歴史研究に関する助言及び指導などに努め、市民の学びを支えていきます。
- ・市民協働、地域連携の事業を推進し、市民や地域に開かれた博物館を目指します。
- ・学校連携を充実し、児童・生徒の学びを支えていきます。
- ・横浜の歴史・文化や文化財を守り継承していくという公益的使命を立ち位置とし、公益財団法人として公益性のある事業を展開すると共に、効果的・効率的な事業の展開及び経営力の向上を図りながら組織運営に取り組みます。

## **I 本部事業**

### **〔取組の全体像〕**

法人本部では、理事会等で決定された経営の方向性を全体に示し、その使命を職員、各管理運営施設が一体となって遂行できるよう、事業の企画調整、組織運営を進めます。また、組織を支える人材の育成に向けて、効果的、実践的な研修を実施することや適正な人材配置等を通して、組織全体の力を向上させます。

公益的役割を適正に果たしていくため、理事会、評議員会を適時、適切に開催、運営し、その結果等を遅滞なく神奈川県に報告する等、法に基づく組織運営を行います。また、コンプライアンスの意識を組織内に浸透させるとともに、人事労務の管理運営、予算の執行管理などを行い、円滑な組織経営を支えます。

施設設備の老朽化や故障、災害対応など、各管理施設の維持管理と来館者、職員の安心・安全を守る取組、所蔵文化財の維持、保全を図るため、横浜市教育委員会と連携して取組を進めていきます。

### **1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）**

#### **（1）円滑な組織管理・運営**

- ① 効果的・実践的な研修の実施
- ② 職員が自らのキャリアパスを意識できる自己申告制度の実施
- ③ 組織内役員会議、課長会議、担当係長会議等の諸会議の開催、各種規則整備
- ④ 情報システム管理
  - 1 情報システム機器の保守・管理
  - 2 情報セキュリティに関する啓発・研修
  - 3 財団内システムの円滑な運用
- ⑤ 横浜市所管課との連絡調整

#### **（2）人事・労務管理**

- ① 職員の採用、異動等人事
- ② 就業規則他諸規則の整備及び運用
- ③ 給与、社会保険、税金関係等の処理
- ④ 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策
- ⑤ 職員メンタルヘルスの支援

#### **（3）予算執行管理**

- ① 当該年度の収入の見通し等、法人を取り巻く社会経済情勢を全体で共有し、各管理運営施設単独事業、横断・連携事業、全体で取り組む事業など、計画的、戦略的な予算編成・執行管理
- ② 補助金・寄附金・協賛金確保に向けた企画調整

#### **（4）理事会・評議員会の運営**

- ① 定期開催（理事会：4回／年・評議員会：2回／年）
- ② 重要課題に対応する臨時会開催（不定期）
- ③ 神奈川県への報告等、公益法人の責務の実行

#### **（5）全体事業企画調整・推進**

- ① 協約目標の共有など各管理施設間の共通認識形成
- ② 組織間など多様な連携創出
- ③ PDCAサイクルによる企画展の実施、成果・課題を今後の事業にフィードバック
- ④ 市民協働による事業の実施
- ⑤ 法人ホームページの管理・運営を通じた新規顧客確保につなげる事業等周知
- ⑥ メルマガの発行によるリピーターの確保
- ⑦ エデュケーター事業（学校連携・授業動画制作）の実施
  - 1 学校連携による各管理運営施設の利用促進
  - 2 教育委員会、小・中学校社会科研究会及び法人主催の教職員研修の企画・調整・運営
  - 3 学校の社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援
  - 4 小学校訪問授業の企画・調整・実施、周知
  - 5 授業改善のためのアンケート実施と検証
  - 6 学習補助教材となる授業コンテンツ動画等の作成、各学校への提供
- ⑧ 財団一体的な広報活動の実施

**（6）災害対応**

- ① 防災訓練の実施推進
- ② 帰宅困難者一時滞在施設（歴史博物館）としての役割の理解と実際の災害時の現場 対応
- ③ 所蔵文化財の防災対策、災害時の対応及び激甚災害への備えと対応の検討

## II 広報・収益事業

### 〔取組の全体像〕

令和8年度からは、第4期の指定管理期間がはじまります。5館一体、再構築、裾野の拡大という柱を軸に構成された提案書の重点方針に示したように、5館一体の施設運営、第4期指定管理期間において特に注力すべき自主財源比率の向上に向けて、これらの担当を広報・収益事業担当を総務課に設置します。総務課の担当と各施設の広報・収益事業担当でチームを構成し、これまで施設ごとに行われていた広報や収益事業全般を統括します。これにより、効率的かつ強力な体制で事業を推進していきます。

具体的には、意思決定の迅速化を図りながら、担当職員育成のための研修の企画・実施、インバウンドや教育旅行なども見据えた展覧会や各施設のイベント等の広報戦略の企画・実施を行います。

収益面では、会員制度の推進、施設の休眠資産の有効活用の検討に加え、企業協賛の獲得（ファンドレイジング）や、5館の特性を活かした合同企画、ミュージアムショップ等でのデジタルデータを活用した高付加価値商品の開発・販売、およびその合理化策の検討、立案、実施などを行います。

### 1 広報事業（定款第4条第1項第1号②）

項目	中項目	内容
総務課 広報担当	全体	・ 広報事業の中期計画の策定 ・ 施設広報担当との情報共有会議の実施 ・ 広報担当者研修の実施 ・ 観光協会等が主催する講座、会議等への出席、情報収集
	広報	・ 新聞・雑誌・ラジオ等マスコミへの情報提供・出演調整 ・ 財団広報番組の制作 ・ 展覧会広報計画、スケジュールの作成支援 ・ プレスリリース配信サービスの契約更新
	広告	・ 各メディアへの有料広告出稿、プロモーション施策の企画、実施 ・ 協賛金獲得に向けた広告獲得営業
	SNS・ 動画配信	・ 公式X等の契約更新、SNS等の運営支援 ・ 横浜市のSNS等との連絡調整 ・ 動画配信プラットフォーム等の契約更新、動画配信の運営支援
	ウェブ関係	・ 財団、各施設の公式ウェブサイトおよびデジタルアーカイブのサーバー管理
	連携	・ 企業、団体等の連携事業のステークホルダーの開拓、連絡調整 ・ 施設利用者の裾野拡大に資する取組の企画、実施
	統計・分析	・ 各館が実施するアンケート結果の集約、分析、施設担当へのフィードバック

## 2 収益事業（定款第4条第2項）

項目	中項目	内容
総務課 収益事業担当	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益事業の中期計画の策定</li> <li>・施設収益事業担当との情報共有会議の実施</li> <li>・収益事業担当者研修の実施</li> <li>・民間団体等が主催する講座、見本市等への参加、情報収集</li> <li>・ファンドレイジングマニュアルの作成</li> </ul>
	ショップ・ カフェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営体制の統一による効率化</li> <li>・オンラインショップの運営効率化</li> <li>・所蔵資料を活かした新商品開発力の強化に向けた体制構築、資金確保、企画、実施</li> </ul>
	施設活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行為許可、目的外使用許可による遊休資産の有効活用に向けた自主事業取組の企画、実施</li> <li>・休館日を商業撮影の促進に向けたロケーションサポート事業の企画、実施</li> </ul>
	協賛金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間帯などの活用によるあらたな収入源の創出</li> <li>・歴史博物館有料会員制度の安定運用および、関内方面施設の有料会員、企業協賛金スポンサー制度の構築</li> </ul>
	寄附金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益法人に対する寄附の優遇税制を活用した取組の推進</li> </ul>
	補助金・ 助成金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁や民間団体による補助金や助成金の申請や書類作成および事務局支援</li> </ul>
	外部資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドファンディング等の企画立案、実施支援</li> </ul>
	連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業、団体との連携による収益事業の企画、実施</li> </ul>
	統計・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各館収益事業の統計分析、施設担当へのフィードバック</li> </ul>

### Ⅲ 指定管理事業

#### [取組の全体像]

新たな指定管理期間の初年度にあたり、財団の新しい方針に沿って事業を展開するとともに、これまでの事業の成果と課題を検証し必要な見直しを行う一方、財団の強みである「通史を担える唯一の団体」であるからこそ可能な事業や公益的視点から実施すべき事業についてはさらに推進していきます。

その実現に向けては、これまで以上に財団内の情報共有を図りつつ、施設間や他団体との連携を積極的に進め、各施設や部署の特長を生かし法人全体で一体的に事業に取り組みます。

#### 1 組織全体としての取組及び事業

##### 1 柔軟な発想と多様性を生み出す連携

###### ◇共同研究による調査・研究

市民の幅広い興味や関心に応えられるよう、各館の専門職に連携を促し、同じテーマに共同で取り組むなど、横断的な調査・研究を進めます。

###### ◇魅力的・時宜に適した企画・展示・講座・出版

「昭和 100 年」をテーマにした展示など施設同士が連携した企画展の開催をはじめ、専門職員同士の連携や大学や企業との連携等により、歴史や博物館の魅力を演出します。

###### ◇地域への貢献

横浜市の各局区や地域では、周年行事や町の活性化イベント、生涯学習講座など、歴史を通してまちづくりやふるさと意識を大切にしていることから、組織の専門性を活かして地域等への貢献を行っていきます。

###### ◇多様な組織との連携

「みなきたマルシェ」や「日本大通りエリアマネジメント協議会」等と連携・協力した集客イベントの開催等、多様な組織と連携・協力し多彩な取組を行うことで、博物館の新たな魅力を創出し、集客につなげていきます。

###### ◇子どもたちの学びの支援の実施

子どもたちの学びを支援し、横浜の歴史についての理解を深めてもらうため、学校来館の受入や訪問授業の実施、解説動画等授業コンテンツの提供に加え、体験活動やイベントを実施します。

##### 2 活力ある、魅力的な組織への取組

###### ◇横断的研究の継続

財団内の人材交流を活性化し、調査研究を充実させるために、各施設の職員が協同で行う横断的研究を今年度も継続して行います。また、ここで得られた研究成果を、連携展示や連携企画に反映していきます。

###### ◇人材育成の充実

職員一人ひとりの資質向上を図るとともに、財団全体で魅力ある事業を組織的に進めていけるよう、効果的な研修を実施するとともに、担当係長会議等を充実します。また、職員がリーダーシップを発揮しやすい状況を生み出す「事業推進リーダー」を継続設置します。

### 【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先	中心となる施設	内 容	
区・地域との連携	全区	全管理運営施設	各管理運営施設の所在区をはじめ、各区の要請等により、歴史文化に関する様々な助言・執筆活動等の支援を実施	
	特定テーマや事業を通じた連携を予定している区	中区	開港資料館 都市発展記念館	広報よこはま中区版での連載「中区歴史の散歩道」の執筆等
		神奈川区	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 埋文センター	広報よこはま神奈川区版での、区制 100 周年に向けた連載企画への執筆
		保土ヶ谷区	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 埋文センター	広報よこはま ほどがや区版に、2027 年の区制 100 周年に向けたコラム「保土ヶ谷区のあゆみ」を隔月で連載
		磯子区	三殿台考古館	区内市民利用施設が連携して実施するゴールデンウィーク企画事業に参加
		金沢区	歴史博物館 埋文センター	金沢区と財団で締結した「歴史文化の普及啓発に関する協定」に基づき文化事業等を実施
		港北区	歴史博物館	小机城をテーマとした普及啓発事業を実施する。12 月にパシフィコ横浜で開催されるお城 EXPO において、埋文センターと連携し、小机城をはじめとする横浜市域の中世城郭を紹介する
		都筑区	歴史博物館	広報よこはま都筑区版に「都筑の歴史」をテーマにした記事を掲載。
		栄区	埋文センター	栄区役所と連携した普及啓発活動の実施、区内遺跡の紹介 区民文化センター・地区センターとの連携
		市との連携	研修会等	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館
国際局	ユーラシア文化館		友好都市、パートナー都市などの関連事業で協力	
教育委員会との連携	小中学校企画課 方面教育事務所	全施設	「授業づくり講座」等職員向け研修への協力 教材研究資料として財団作成資料等を配架	
	教職員育成課	全施設	新採用教員への施設年間無料パスを配布	
	生涯学習文化財課	全施設	文化財調査への協力	
		歴史博物館	令和 8 年度横浜市指定・登録文化財展の実施。	
		歴史博物館 開港資料館	関家住宅公開の実施。	
		都市発展記念館 開港資料館	昭和 100 年をテーマとした展示・講演会等を連携して開催	

		歴史博物館 埋文センター	
		歴史博物館 埋文センター	上郷深田遺跡を紹介する展示で連携
		開港資料館 歴史博物館	開港資料館開催の中世文書展で連携
市・区研究会 との連携	社会科研究会 (市・区)	全施設	教員研修の講師、施設見学の開催、教材研究用 資料の案内 小学校博物館利用研究会 中学校教材開発研究会
学校との 連携	小学校	全施設	歴史学習・社会見学・展示見学の受入 学芸員、エドューケーターによる訪問授業
	小中学校	歴史博物館	学校資料室の助言・活用
	神奈川県高等学 校文化連盟	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	社会科クラブ研究活動への助言 展示見学の受入、社会科研究発表大会の共催
	近隣小学校	三殿台考古館	小学校の総合的な学習の時間等への支援
	中学校等	全施設	中学校2年生を中心としたキャリア教育に協 力し、職業体験等の受入
図書館 との連携	都筑図書館・都 筑区	歴史博物館	都筑図書館・都筑区と3者の主催による郷土講 演会および関連の郷土史ミニ展示を実施する。
	中図書館	ユーラシア文化館	中区ブックフェスタに参加
	栄図書館	埋文センター	区内遺跡のパネル紹介
他館との 連携	神奈川県博物館 協会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	各部会が主催する研修会への参加 加盟館の情報共有と連携の促進
	神奈川県歴史資 料取扱機関連絡 協議会	歴史博物館 開港資料館	歴史資料を取り扱う県内の機関相互の情報共 有と連携、研究協議を実施
	県立博物館等	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	調査研究、企画展での協力 共同調査の実施（歴博）
	神奈川県立歴史 博物館	開港資料館 都市発展記念館	開港・都発との共催展示「絵図で旅する幕末の 横浜・日本（仮）」での連携
大学との 連携	東海大学	歴史博物館	館蔵資料の整理等を博物館実習のカリキュラ ムに組み込んだ「大学と博物館の協働による資 料の保存活用事業」を実施
	横浜国立大学都 市イノベーション 研究院	歴史博物館	閑家住宅公開事業での解説パネルの制作及び 横浜国立大学学生による解説の実施
	フェリス女学院 大学	歴史博物館	大学と協定を締結し、カリキュラムに組み込ま れたインターンシップ学生の受入

	昭和女子大学	開港資料館	歴史文化学科が実施する「アーカイブズ実習」の受入
	大学学外研修	ユーラシア文化館	東洋史専攻の学生などを対象に、大学のカリキュラムに則した形の学外実習を受入
その他教育機関との連携	浅野工学専門学校	都市発展記念館	同校が所蔵する建築関係資料に関する共同調査研究
市民協働	市民ボランティア	歴史博物館	<p>&lt;展示解説ボランティア&gt;</p> <p>大塚遺跡等の野外施設及び常設展示室の解説。学校団体など来館者への展示解説と遺跡解説を一体的サービスとして提供</p> <p>&lt;活動支援ボランティア&gt;</p> <p>体験学習室等でのワークショップ、区民まつりなどの集客イベント等に協力</p>
	活動支援ボランティア	都市発展記念館 ユーラシア文化館	活動支援ボランティアと連携して、企画展開催時の土・日にワークショップを開催
	遺跡ガイドボランティア及び遺跡整理ボランティア	三殿台考古館	関心ある市民にガイドとして参加してもらい、来館者への解説や体験学習を実施 ボランティアの協力を得て収蔵資料の再整理を実施
	横浜郷土史団体連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	横浜郷土史団体連絡協議会の事務局を担当し、連携して各種事業を実施
	横浜歴博もりあげ隊との協働	歴史博物館	博物館をバックアップする市民団体である「横浜歴博もりあげ隊」と協働し、事業等を実施
	縄文土器作りの会	歴史博物館	学校等からの要請に応じ「横浜縄文土器づくりの会」と協働で出張土器づくり指導を実施 実験考古学講座「縄文土器づくり」を実施 実験考古学の方法論に沿った調査・研究活動へ協力
	横浜古文書を読む会	歴史博物館	古文書解読教室の修了者が中心となって活動する「横浜古文書を読む会」と連携し、所蔵資料を中心に古文書の翻刻を行い、当館の出版物等にその成果を発表
	横浜古代史料を読む会	歴史博物館	古代史講読講座の修了者が中心となって活動する「横浜古代史料を読む会」と連携し、歴史を学ぶ一般の方向けの講座講演会等を実施
	横浜さいかちの会	歴史博物館	展示解説ボランティアのOBや現役が中心となって活動する「さいかちの会」と連携し、展示解説ボランティアのスキルアップに資する講座や史跡見学実習等を実施
	横浜シティガイド協会	開港資料館 都市発展記念館	市民の視点から地域をガイドする団体「NPO 法人横浜シティガイド協会」と協力し、テーマに沿った学芸員の解説とガイドツアーを組み合わせた連携事業を実施
スタチューパフ	ユーラシア文化館	横浜スタチュー・ミュージアムを実施し、集客	

	オーマンス協会		と地域の賑わい創出に貢献
地域連携	タウンセンター 活性化検討会	歴史博物館	港北ニュータウン・タウンセンター地区の諸事業所と連携し、活性化を図る企画や催しを実施
	センター北商業 振興会	歴史博物館	3月に開催されるセンター北まつりに参加し、地域の賑わい創出に寄与
	みなきたマルシェ 実行委員会	歴史博物館	毎月最終土曜日開催の「みなきたマルシェ」に協力し、地域の賑わい創出に寄与。歴史未来フェスでも協力する。
	ボッシュホール・ 都筑民家園	歴史博物館	定期的に情報交換を行い、事業等連携する。ボッシュホールとは歴史未来フェスを共催する。
	センター中央文化 祭実行委員会	歴史博物館	秋季に周辺施設や団体・企業が連携して実施するセンター中央文化祭に出店等協力する。
	地元商業団体	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	ハマフェス Y167 に参加し、地域の賑わい創出に寄与
	日本大通りエリア マネジメント 協議会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	開港資料館文化観光拠点計画で連携 日本大通り周辺の事業所が連携し、活性化企画や催しを実施。横浜スタチュー・ミュージアムを実施
	横浜中華街発展 会	開港資料館 ユーラシア文化館	開港資料館文化観光拠点計画で連携 中華街での出張展示の実施や横浜スタチュー・ミュージアムの実施
	山下公園通り会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	開港資料館文化観光拠点計画で連携 加盟事業者によるイベント等への参加、協力 ハマフェス実施等に関する連絡調整
	元町 SS 会	開港資料館	開港資料館文化観光拠点計画で連携
	よこはま地域文化 遺産デビュー・ 活用実行委員会	歴史博物館	民家園・遺跡公園・博物館等を拠点に、資料整理や連携イベントなどを開催
	横浜地域資料研 究会	開港資料館 歴史博物館 都市発展記念館	中山恒三郎家文書を中心とした横浜市北部地域の総合的な調査・研究
	磯子区館長連絡 会	三殿台考古館	区内市民利用施設の連携・情報交換
	栄区施設交流会	埋文センター	区内市民利用施設の連携・情報交換
	上郷ネオポリス 自治会	埋文センター	自治会夏祭りへの参加、その他各種地域活動支援
	横浜商工会議所	開港資料館	同会会報誌「YOKOHAMA商工季報」に横浜の歴史に関する記事を連載
	横浜港振興協会	開港資料館	同会広報誌「よこはま港」に横浜の歴史に関する記事を掲載
	よこはま縁結び 講中実行委員会	歴史博物館	青葉区の市民ギャラリーあざみ野、緑区のみどりアートパーク、港北区の大倉山精神文化研究

			所及び小机城のあるまちを愛する会等と連携し、北部4区の文化遺産を活用するイベント等を開催するとともに、一体的に情報を発信し、新たな地域文化圏の形成を図る。
企業との連携	株式会社三陽物産	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 埋文センター	株式会社三陽物産との協定に基づき、横浜の歴史に関する普及啓発事業を協働で実施
	横浜ビー・コルセアーズ	歴史博物館	横浜ビー・コルセアーズとの協定に基づき、歴史及びスポーツ文化に関する普及啓発事業を協働で実施
	ボッシュ株式会社	歴史博物館	本社1Fに設けられたマルチパーパススペースについて、展示を含めた活用に協力する。
	横浜エクセレンス	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	横浜エクセレンスとの協定に基づき、歴史及びスポーツ文化に関する普及啓発事業を協働で実施
	ローズホテル横浜	ユーラシア文化館	「ホテル de ミュージアム 横浜中華街歴史回廊」を実施
	横浜マリンタワー	開港資料館	マリンタワー内での展示協力、観光客や学校団体の回遊企画の実施
	その他外部組織との連携	かながわ考古学財団	埋文センター
全国埋蔵文化財法人連絡協議会		埋文センター	情報交換・イベント共催
日本考古学協会		埋文センター	図書交換会での情報交換
スタチューパフォーマンス協会		ユーラシア文化館 都市発展記念館 開港資料館	横浜スタチュー・ミュージアムを実施し、集客と地域の賑わい創出に貢献
駐横浜大韓民国総領事館		ユーラシア文化館	「韓国 手仕事の美事」展で後援、広報協力
神奈川県韓国総合教育院		ユーラシア文化館	「韓国 手仕事の美事」展で協力、「絵本読み聞かせ会」の共催、広報協力
在日本大韓国民団神奈川県地方本部		ユーラシア文化館	「韓国 手仕事の美事」展で後援、広報協力
在日本大韓民国婦人会神奈川県地方本部		ユーラシア文化館	「韓国 手仕事の美事」展で後援、広報協力

## 2 歴史博物館事業

### 〔取組の全体像〕

令和7年に開館30周年を迎えた歴史博物館は、新たな一歩として、資料保存や調査研究、展示・普及活動を通じて、生涯学習施設として市民に横浜の歴史・文化の魅力を伝え続けるとともに、港北ニュータウン地域の文化施設として、地域のさまざまな施設や団体とともに、地域での活動に取り組んでいきます。

企画展では、第4期指定管理提案書のキーワードとなる5館一体を意識した財団内他施設との連携事業を進めます。夏季に開催予定の北原コレクションとのコラボ展覧会「昭和の時間に包まれる -北原コレクションと所蔵資料」展では、**昭和100年に関する企画展**として、**横浜都市発展記念館「昭和100年記念写真展」**と**相互連携**します。また昭和時代の特徴といえるニュータウン開発と史跡整備の視点から大塚・歳勝土遺跡の史跡整備に関する写真展を秋季に実施し、横浜市三殿台考古館が実施する**三殿台考古館開館60年の展覧会**と**連携**します。春季に実施する「君も今日から考古学者」展では、**埋蔵文化財センターと連携**し、同センターが秋季に栄区で実施する上郷深田遺跡の展覧会のプレ展示を会場内で行い、講演会などの普及事業で連携します。また、**横浜開港資料館**で開催予定の「**横浜に遺る中世文書**」(仮)について、**当館中世担当学芸員が協力**します。

他にも、多様な分野から横浜の歴史の魅力を発信する企画展を実施します。秋季には、神奈川県立歴史博物館との**共同調査研究の成果**と、**当館寄託・所蔵の笠木治郎吉の作品の公開**を兼ねた「**横浜絵の深層**」展、**横浜市教育委員会とともに長年実施してきた文化財調査の成果を公開**する「**南武蔵の平安仏**」展の2本の美術の展覧会を開催します。冬季には、江戸時代に**横浜市域を治めた領主たちの実像**に迫る「**横浜の領主展**」を開催します。

普及事業では、ワークショップ「**れきし工房**」やさまざまな講座・講演会を継続して実施します。また、「**歴史未来フェス**」の実施や「**センター中央文化祭**」への参画など、昨年開館した都筑区民文化センター「**ボッシュホール**」・大塚歳勝土遺跡公園内の都筑民家園をはじめとした**周辺諸施設や団体との連携**を図りながら、**地域の活性化に貢献するとともに、歴史・文化に触れる人々の裾野を広げて**いきます。

劣化や老朽化が課題となっている常設展示室や大塚・歳勝土遺跡では、優先順位を決め、修繕等に向けて必要な手続きを進めます。

デジタルアーカイブについては、昨年度構築した収蔵資料データベースの充実を図るとともに、公開用Webサイトの運用を開始し、ひろく収蔵資料の情報を公開します。

資料収集保存事業については、収集と整理を進め、保存環境の維持・管理を適切に行います。調査研究事業では、基礎研究・テーマ研究・市民協働研究・連携調査研究を設定し、その成果は企画展や普及事業、出版等により市民に還元していきます。また博物館の関連団体と**連携・協働**しながら各種の催しを実施します。

収益事業では、オンラインショップを含めたミュージアムショップに注力し、企画展や催しに合わせて魅力ある商品を揃えるとともに、博物館の活性化や地域の活力向上に資する商品開発や取扱いに取り組みます。また昨年開始した「**横浜レキハク・パートナーズ**」を広く周知するとともに、**博物館のサポーター獲得につとめます**。

## 1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館の基幹となる資料の収集や整理を進め、公開や利用に供します。収蔵庫の保存環境の維持・管理については、一層の注意を払いながら行います。

### （1）資料の収集

資料の保全、並びに展示や調査研究等の博物館活動で活用することを目的に、実物資料などを寄贈・寄託や購入等によって収集する。

### （2）資料の修繕

資料の保全の観点から必要な修復を行う。

### （3）資料の保存

収蔵庫へ納める資料については二酸化炭素などを利用した燻蒸を行い、またIPMの手法による定期的な環境検査を実施して資料の保存環境の維持を図る。

### （4）資料の整理活用

東海大学と連携した、館蔵資料の整理等を博物館実習のカリキュラムに組み込んだ「大学と博物館の協働による資料の保存活用事業」を継続実施する。当館や財団管理施設、また市内の資料所蔵施設の考古・歴史・民俗資料については、継続して整理を進める。

当館収蔵資料および展示資料のデジタル写真の撮影を進める。また過去に撮影して保管しているフィルムについては、順次デジタル化を進める。

令和7年度に構築した収蔵資料のデータベースについて、運用を開始し、必要な情報を順次更新する。また令和7年度に制作した収蔵資料デジタルアーカイブのサイトの運用を開始し、収蔵資料の情報を広く公開し、活用に資する。

### （5）図書資料の公開

図書文献を収集して整理を進め、図書閲覧室で公開する。

### （6）画像資料等の提供

画像資料等を利用に供し、資源の活用を図る。

## 2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

### （1）調査研究

博物館活動の原資となる調査研究として、基礎研究・テーマ研究・市民協働研究の3分野を設定し、継続的かつ計画的に進めていく。

項目	目的・意図	今年度の成果目標
<b>基礎研究</b>		
市域所在の中世資料の調査（1/1年次）	横浜市域所在の中世資料を再確認し、調査を行う。	開港資料館および当館所蔵の中世文書について精査し、開港資料館企画展「中世文書展」で紹介する。
市内旧家所蔵資料調査（1/1年次）	横浜市や神奈川県が昭和期に実施した調査により所在が確認された資料の再調査や、新たに確認された資料の調査・整理を行う。	青葉区横溝家文書、戸塚区澤邊家、朝倉家文書などの整理を行う。

横浜市域の美術史の 基礎的研究 (1/1 年次)	これまで横浜市域における美術作品の調査研究は未着手な状態である。これらを体系的に捉え、美術史の俎上で研究を進めるため、市域寺院、所蔵資料の基礎的データ蓄積と作成を行う。	伊藤家資料の資料調査・整理を行う。また昨年度までに一次整理の終了した資料及び芹沢銈介関係資料の詳細調査を進めていく。前年に引き続き当館所蔵絵画資料の悉皆調査を行い、絵巻の目録作成のためのデータの整理を行う。
八聖殿資料調査 (1/1 年次)	昭和 48 年の開館以降、八聖殿郷土資料館に収蔵された資料は収蔵期に刊行された目録作成以降、その後あらためて調査されずに現在に至っている。この八聖殿で所蔵されている民俗資料の現状調査・整理を行う。	昨年度まで実施していた資料調査・整理を引き続き行う。
<b>テーマ研究</b>		
大塚遺跡の水田・食糧に関する研究 (1/2 年次)	三殿台考古館・埋蔵文化財センター・外部研究者・横浜縄文土器づくりの会と連携し、水田遺構に関する先行研究や他地域の事例などを検討する。水田(戸塚区)を試耕し、弥生時代の稲作について検討する。また歳勝土遺跡の地中レーダー探査の結果についても検討を進める。	「水田稲作比較技術研究プロジェクト」(代表:山田昌久)に参加し、水田や畑で、生育条件を変えた水稲や陸稲の実験育成を行い、弥生時代の稲作に関するデータの蓄積などを継続して進める。その成果は紀要や展示などで公開する。歳勝土遺跡の地中レーダー探査結果についてまとめを行う。
市内彫刻文化財の研究 (1/2 年次)	横浜市による彫刻文化財の調査報告を中心としたこれまでの研究成果を整理したうえで、市域に伝わる仏像を体系的に捉える。	昨年度までに行った実地調査によって得られた基礎データをもとに、市域のうち旧武蔵国に属する地域の平安仏についてまとめ、その成果を展示で公開する
学校内歴史資料室に関する研究 (1/2 年次)	平成 25 年度からこれまでに実施した学校内歴史資料室の資料整理の成果に基づき、学校や地域と連携して、その活用を図る。	学校内歴史資料室に関する情報をまとめ、資料所在状況や具体的な活用のあり方等を明らかにする。
都筑区川和町中山家に関する研究 (1/2 年次)	平成 30 年度から「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業」の一環として整理している中山家資料について、資料の分析を行い、川和地域と中山家の関係や様相を明らかにする。	中山家資料の整理・調査作業を進めるほか、分析のためのデータを蓄積する。
武州金沢藩米倉家文書に関する研究 (1/2 年次)	横浜市域唯一の大名である武州金沢藩主米倉家に残された資料の整理を行い、文書群の性格やその意義を考える。	昨年度に引き続き、米倉家文書のうち、横浜市史料所在目録第二集に掲載されていない未整理の資料の整理を継続する。

小机城・小机地域にかかわる総合的研究 (1/2 年次)	横浜市北部域にのこる中世関係資料について近世地方文書等から遡及しながら、その位置づけについて調査する。	「小机四人衆」と伝える旧家を中心に、小机地域での危機と調査を行う。
近世横浜の領主支配に関する研究 (1/2 年次)	近世の横浜市域の村々は、幕府領、大名領、旗本領、寺社領など実に多様な領主による支配を受けた地域であった。こうした多様な領主支配の特質を明らかにすることで、市域の地域性を提示する。	昨年度に引き続き、市内旗本関係資料の収集を行うとともに、資料の分析を進める。旗本回向寺の所在調査も引き続き実施する。
<b>市民協働研究</b>		
土器の制作・使用に関する実験考古学的研究 (1/1 年次)	市内出土の土器について、横浜縄文土器づくりの会・外部研究者の協力を得ながら弥生土器を中心とした先史時代土器の観察と製作・使用実験などを行い、先史時代の土器利用について研究する。	継続して大塚遺跡出土の宮ノ台式土器の製作実験と使用実験を中心に行い、データの蓄積を進める。その成果は紀要や展示などで公開する。本年度は横浜縄文土器づくりと協力し器台の使用法についても検討を行いたい。
市民協働古文書整理解説 (1/1 年次)	横浜古文書を読む会の下読み会とともに、当館所蔵の古文書を中心に、整理作業や解説を行う。解説の成果は紀要や調査研究報告などで公開する。	当館所蔵の近世文書の解説を継続し、成果を展示や各種普及事業に反映させていく。
市民協働民俗調査 (1/1 年次)	民俗に親しむ会とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを進める。	継続して恩田川流域のフィールドワークを実施する。また勉強会を開催し、流域の文化について学ぶ。

## (2) 企画展開催にともなう調査研究

来年度以降に予定する企画展・特別展の準備のために他の機関・施設の資料調査などを実施する。

## 3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②） ※基本観覧想定数 52,000人（有料30,000人）

常設展示室を公開し、広く市民に横浜3万年の歴史を紹介します。またミニ展示等イベントを開催し、利用者の促進を図ります。

### (1) 維持管理事業

展示物や機器類の保守点検、部分的な展示替えをふくむ維持管理、また修繕等を行う。

### (2) 魅力Up事業

常設展示室の構造と特色を活かして、来館者の満足度を高めるための事業を行う。

#### (ア) 多言語展示解説アプリの周知と運用

英語・中国語・韓国語・ドイツ語により常設展示室を解説する多言語アプリについて、周知を図っていく。また団体見学で訪れる学校による利用も促進する。

#### (イ) 常設展示室解説映像のアプリ視聴の周知

デジタル化し、スマホやタブレットでの視聴を提供した常設展示室内 11 か所の解説映像について、多くの市民の利用に供するため、引き続き周知を図っていく。

(ウ) スタディサロンの活用

スマホやタブレットで、横浜の歴史や文化財の映像の視聴と、楽しく学べる歴史クイズに挑戦する、「クイズ&ムービー」の利用促進を図る。

(エ) ミニ展示

スタディサロンやロビー等を活用し、収蔵資料等の紹介や、小学校の学習単元に合わせた「ミニ展示」を実施する。

(オ) 展示解説ボランティアによる常設展示解説

展示解説ボランティアによる常設展の展示解説を学校団体や来館者に行い、展示理解の向上に努める。

併せて、令和 6 年度に導入した定時のワンポイント解説を継続して実施し、常設展のより深い魅力を来館者に伝えていく。

(3) 更新検討事業

設備の老朽化や、開館以来積み重ねてきた研究成果などを踏まえ、長期的な視点で、常設展示室のリニューアルについて検討を行う。

(4) 歴史劇場の活用および映像コンテンツ制作

老朽化により稼働不能な制御装置や機器を撤去した劇場内にて、学校見学等に対応した映像の上映などによる運用を継続しながら、活用方法を検討する。

## 4 企画普及事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

### (1) 企画展・特別展

本年は、初めて通史を学ぶ小学校 6 年生をターゲットにした**考古展**、北原コレクションとコラボし、横浜都市発展記念館と連携した昭和 100 年の**企画展**、神奈川県立歴史博物館との共同研究にもとづく「横浜絵」の企画展、都筑・橘樹・久良岐郡に属した地域に伝わった平安時代後期の仏像に焦点を当てる南武蔵の平安仏展、江戸時代の横浜市域の領主たちの実態に迫る横浜の領主展、令和 8 年度の指定登録**文化財を紹介する文化財展**など、博物館活動や他施設との連携の成果をふまえつつ、時宜に応じた展覧会を開催する。多様な関連事業を展開し、より広い層の方々に当館の展示をご覧いただけるように広報を努めていく。

※基本観覧想定数は、過去の入館者を参考にした人数

企画展・特別展名称／開催期間	基本観覧想定数	目的・意図、実施内容
<p>君も今日から考古学者！—横浜発掘物語 2026— 令和 8 年 4 月 18 日（土）～6 月 21 日（日） 開館日数 56 日</p>	<p>12,000 人 ※有料 3,950 人</p>	<p>社会科見学に来館する小学校 6 年生を主なターゲットとして、考古学の基礎と横浜の遺跡について、わかりやすく伝える展示とする。より年齢が下の児童や未就学児が来館し考古学の基礎を学ぶことができるよう展示に配慮し、歴史や考古学への興味を持ってもらうことも目的とする。また、一般の考古学ファン向けの展示コーナーも設置し、幅広い層に来館いただける展示を目指す。</p> <p>（公財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターと連携して、2025 年に報告書が刊行された神奈川県唯一の古代製鉄遺跡である上郷深田遺跡に着目し、遺跡から見つかった金属製品についての展示も実施する。</p> <p>対象：未就学児～小学校学年とその家族、一般</p>
<p>昭和の時間に包まれる—北原コレクションと所蔵資料—（仮題） 令和 8 年 7 月 4 日（土）～8 月 23 日（日） 開館日数 44 日</p>	<p>6,000 人 ※有料 3,600 人</p>	<p>昭和 100 年を迎え、昭和を体験している人が人口の多数（約 7 割）を占めている現在にあつて、昭和を知らない世代の人々（平成・令和生まれ）に昭和を伝えるのみならず、昭和を生きた人々にその体験を思い出してもらう機会を提供する。特に、戦後期の高度経済成長期における日本では、物質的に皆が豊かになっていくなかで、「お得」や「便利」といったカテゴリーだけでない「あこがれ」といったモチベーションが世の中を席捲していた時代である。そんな昭和の日常を北原コレクションと当館所蔵資料をコラボさせ紹介する。同時代に使われた家電やおもちゃ、企業広告、一般的な商店のミニチュアなどのほか、日産や不二家といった横浜にゆかりのある商業的な資料のコレクションも紹介する。</p> <p>横浜都市発展記念館で開催予定の昭和 100 年関連企画展との連携企画展。</p>

		対象：一般
<p>横浜絵の深層（仮題） 令和8年9月5日（土）～10月18日（日） 開館日数 38日</p>	<p>6,000人 ※有料 2,700人</p>	<p>開港以来、横浜は絵画のみならず陶磁器など様々な造形が外国人向けに輸出され、また土産物として受容された。横浜浮世絵、横浜写真、五姓田派の絹絵、芝山漆器、眞葛焼など横浜で生まれた造形の豊かさも知られるようになっている。一方で、作品や資料が少ないため、こぼれ落ちた作家や作品も多くある。本展は当館が近年寄託を受けた、横浜で活動した忘れられた画家、笠木治郎吉作品を紹介すると共に、明治期に横浜で制作された水彩画や肖像画といった絵画資料を中心に、横浜絵をキーワードにみていく。</p> <p>対象：一般</p>
<p>横浜（南武蔵）の平安仏（仮題） 令和8年10月31日（土）～12月13日（日） 開館日数 38日</p>	<p>7,000人 ※有料 4,550人</p>	<p>旧武蔵国でもとくに多摩川以南の、現在の神奈川県にあたる都筑郡・橘樹郡・久良岐郡に属した地域に伝わった平安時代後期の仏像に焦点を当て、古代における当該地域の仏教文化の様相を探る。橘樹郡の郡寺と推定される川崎市宮前区・影向寺本尊の薬師如来像をはじめとする平安時代前期から引き続き素朴な作風を残す 11・12 世紀の作例に注目することで、当時政治・文化の中心地であった近畿地方から離れた横浜の地で展開した文化の変遷を目にみえるかたちで紹介する。</p> <p>対象：一般</p>
<p>横浜の領主展（仮） 令和9年1月9日（土）～2月14日（日） 開館日数 31日</p>	<p>5,000人 ※有料 1,980人</p>	<p>天正18年（1590）後北条氏の滅亡後、関東に入国した徳川家康は、江戸城を拠点として、その周辺に直轄地を、また、江戸から一夜泊まりで往復できる範囲に直臣家臣である旗本（1万石未満）を配置した。横浜市域のほとんどがこれに含まれたため、幕府の直轄地や旗本領が多く分布することになった。これに加えて、市域では唯一の大名である米倉家のほか、特殊なものとして湯島聖堂領、増上寺領、紅葉山御神領があり、実に多彩な領主たちが存在して</p>

		いた。 本展では、彼らが遺した資料からその足跡をたどりながら、かつて横浜市域を治めた領主たちの実像に迫る。 対象：一般
令和8年度横浜市指定・登録文化財展 令和8年1月31日（土）～3月1日（日） 開館日数 21日	2,000人 ※有料1,200人	令和8年度に指定・登録された文化財について紹介する。 対象：一般

(2) 講座・講演会

項目	目的・意図
古文書解読教室 初めての古文書	初心者を対象に、当館学芸員を講師として、近世古文書の解読講座を開催する。対面にて実施、アーカイブ配信予定。全8回。
特別講演会	毎年実施している、開館を記念した特別講演会。考古・歴史・民俗・美術分野の第一線で活躍する研究者を講師に招いて実施する。
実験考古学講座縄文土器づくり	港北ニュータウン地域内で出土した縄文時代の土器をモデルに製作する講座。全4回。
紙芝居デビュー講座	紙芝居の歴史や演じ方を学び、横浜市有形民俗文化財の街頭紙芝居の複製を実際に演じるまで行う講座。
バックヤードツアー	博物館の裏側を見学できるツアーを実施する。
親子向けナイトミュージアム	閉館後の照明を落とした博物館を、懐中電灯などを使って探検する。
いけばなワークショップ	都筑民家園を会場に、生け花のグループワークショップを行う。
関連団体との協働歴史講座	当館の関連団体と協働で、随時歴史講座を開催する。



紙芝居デビュー講座



土偶の野焼き



ナイトミュージアム

### (3) 普及体験

項 目	目的・意図
体験学習室「れきし工房」	ミュージアムショップで販売する「れきし工房キット」を制作するワークショップ。作品を「作る」ことに主眼を置く。原則として毎月最終土曜日に「まが玉」「あじろ編み」を実施。制作のサポートは、活動支援ボランティアの協力を得る。
事前申込型「れきし工房」	野外施設の工房や体験広場等で、ゲスト講師を招き、楽しみながら歴史に触れるワークショップ「れきし工房」を開催する。「作る」だけではなく作品の背景も学ぶ。土偶づくり、銅鏡チョコづくり、ドッキーづくり等を実施。
おもしろいぞ！紙芝居	横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、複製した紙芝居を毎月最終土曜日に実演する。
スタディサロンイベント	スタディサロンを活用して、ミニ展示や普及事業を実施する。

### (4) 集客イベント等

項 目	内 容
歴史未来フェスの実施	地域の文化施設として地元で活動する団体等と連携し、地域の人々が集まり交流する場をつくることを目的に、博物館を無料開放し、イベントを実施する。今年はボッシュホールと共催し、2施設で協力して実施する。
「開港記念日」イベント	開港記念日を祝し、ペリーのぬりえなどを実施する。
センター中央文化祭連動イベント	10月に実施予定のセンター中央文化祭と連動して、イベントを実施する。
センター北まつり連動イベント	センター北まつり（3月開催）と連動してイベントを実施する。
濱ともデー	濱ともカードを持つシニアを対象に、毎月最終水曜日に常設展・企画展を無料で公開する。

### (5) アウトリーチ

項 目	目的・意図
関家住宅特別公開	教育委員会と連携し、国重要文化財である関家住宅の特別公開事業を実施する。
中山恒三郎家公開	財団他施設や地域の町内会、ガイド団体などと連携し、市認定歴史的建造物である中山恒三郎家の公開事業を実施する。

### (6) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの連携	<p>&lt;展示解説ボランティア&gt;</p> <p>市民ボランティアにより、大塚遺跡を始めとする博物館野外施設および常設展示室の解説を行う。学校団体を始めとする来館者の展示理解を深めると共に、遺跡の解説との一体的サービスにより、館全体の活性につなげる。</p>

	<p>&lt;活動支援ボランティア&gt;</p> <p>令和7年度の実績をもとに、体験学習室でのワークショップ「れきし工房」での対面指導を行う。その他、企画展や普及事業の関連事業を協力して実施し、館の活性化を図る。</p>
横浜郷土史団体連絡協議会との連携	開港資料館と共に横浜郷土史団体連絡協議会の事務局を担当し、連携して各種の事業を実施する。
横浜歴博もりあげ隊との協働	博物館をバックアップする市民団体である「横浜歴博もりあげ隊」と協働し、事業等を実施していく。
横浜縄文土器づくりの会との協働	実験考古学講座縄文土器づくり教室の指導を委託する。 会の活動について広報を行う。 調査研究事業への協力を依頼し、実施する。
古文書を読む会との協働	古文書解読教室の修了者が中心となって活動する「横浜古文書を読む会」と連携し、所蔵資料を中心に古文書の翻刻をおこなう。 また、近世史に興味のある一般の方へ向けた講演会を企画・実施する。
古代史料を読む会との協働	古代史講読講座の修了者が中心となって活動する「古代史料を読む会」と連携し、歴史を学ぶ一般の方へ向けた講座や講演会などを企画・実施する。
さいかちの会との協働	展示解説ボランティアのOBや現役が中心となって活動する「さいかちの会」と協力し、講座や史跡の見学実習などの展示解説ボランティアのスキルアップに資する事業や研修を実施する。
かやぶき屋根プロジェクト	大塚・歳勝土遺跡公園内の復元竪穴住居の茅葺屋根を市民ボランティアとともに修繕する。 修繕の技術は茅葺職人から指導を受けることとし、その成果は活動内容の見学会や講座などにより広く市民へ伝える。 同公園内の都筑民家園とも連携し、茅と茅葺屋根について楽しみながら学べる機会とする。令和7年度も「よこはま縁むすび講中」の事業のひとつとして実施する。
街頭紙芝居の実演	街頭紙芝居デビュー講座の修了者からなる市民団体により、毎月最終土曜日を中心に「おもしろいぞ！紙芝居」で街頭紙芝居の複製の実演を行う。



ボランティアによる大塚遺跡ガイド



ボランティアによる発掘体験補助



土器づくり教室

(7) 学校連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	エドゥケーターを中心に、児童生徒向けテキスト・児童生徒向け動画・教員向けテキストを活用し、学校の博物館利用を促進する。教員を委員とする「小学校博物館利用研究会」、「中学校博物館利用研究会」を継続して開催し、財団の所有する各種収蔵物や資料等の教材化へ向けた研究を進めるとともに、小中学校との連携の強化を図る。 令和6年度に新システムを導入した学校団体予約システムについて、改良運用し、受け入れ機能の強化を図る。
訪問授業・展示解説授業	令和元年度から始めた6年生への訪問授業「ようこそ歴史博物館遺跡公園へ」は、博物館見学事前指導として有効であるので、より一層進めていく。
教員研修	教育委員会や小学校・中学校社会科研究会と連携して、展示を活用した学習法や体験学習カリキュラムの研修、「市の広がりと昔の暮らし」や「吉田新田の開発」など特定テーマに関する研修を実施する。
神奈川県高等学校文化連盟社会科研究発表大会	神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科研究発表大会(県大会)を実施し、会場の提供や審査員の派遣などを行う。
大学と博物館の協働による資料の保存活用事業	東海大学との連携により、大学の博物館実習のカリキュラムに組み込んで館蔵資料の整理等を実施する。
横浜国立大学都市イノベーション研究院との連携	関家住宅公開事業での解説パネルの制作及び横浜国立大学学生による解説の実施
学校内資料室の調査・整理、授業活用における対応	学校内資料室における資料調査を行い、昔のくらしなどの社会科授業や総合学習の授業に対応した整理を行う。

(8) 地域や多様な組織との連携

項 目	内 容
横浜市との連携	広報よこはま市版コラム「よこはま彩(さい)発見」に寄稿する。
都筑区との連携	広報よこはま都筑区版に「都筑区の歴史」をテーマにした記事を執筆、掲載する。
都筑図書館・都筑区との連携	都筑図書館・都筑区と3者の主催による郷土講演会および関連の郷土史ミニ展示を実施する。
保土ヶ谷区との連携	広報よこはま保土ヶ谷区版にコラム「保土ヶ谷区のあゆみ」を連載する(財団全施設)。
金沢区との連携	金沢区と当財団が締結した「歴史文化の普及啓発に関する協定書」に基づき、文化事業などで連携を図る。
港北区との連携	小机城をテーマとした普及啓発事業を実施する。12月にパシフィコ横浜で開催されるお城EXPOにおいて、埋文センターと連携

	し、小机城をはじめとする横浜市域の中世城郭を紹介する。
ボッシュ株式会社との連携	本社 1F に設けられるマルチパーパススペースについて、展示を含めた活用に協力する。
ボッシュホール・都筑民家園との連携	センター北エリアの文化施設として、ボッシュホール（横浜市都筑区民文化センター）と都筑民家園と当館の 3 館で定期的に情報交換を行い、相互に広報や事業に連携・協力する。
みなきたマルシェとの連携	毎月最終土曜日に実施される「みなきたマルシェ」に際し、コロネードや業務用駐車場のスペースの提供等、事業協力を行う。
タウンセンター活性化検討会との連携	都筑区のタウンセンター地区（センター南・北）の活性化について、当該地区の諸事業所とともに企画や催しを検討する。
きたやまた落語倶楽部との連携	春と秋に開催する「つづき寄席 in 歴博」に共催し、古典芸能の継承への貢献と市民への鑑賞機会の提供に寄与
紙芝居文化推進協議会との連携	同会が主催する手作り紙芝居コンクールに協力し、横浜市歴史博物館賞を設けるとともに手作り紙芝居ライブを当館で実施する。
多様な連携事業の実施	市内の学校・大学、町内会、地区センター、市民団体、民間事業者などと随時連携し、大小の事業を実施する。



ボッシュホールでのパネル展示



センター中央文化祭：紙芝居



都筑図書館・都筑区連携講演会

## （9）広報・広聴

項 目	内 容
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内外の広報案内看板による広報。</li> <li>・市役所や図書館など公共施設、他の博物館や観光案内所等でのチラシ・パンフレット類の配布。</li> <li>・インターネットによる広報（ホームページ・SNS・メールマガジン発信）</li> <li>・リリース配信サービスを利用した幅広い層への PR。</li> <li>・広告掲載等による協賛金の獲得。</li> <li>・新聞・雑誌・ラジオ等マスコミへの話題提供・出演。</li> <li>・外部企業と協働した戦略的な広報の展開。</li> <li>・広報誌「横浜市歴史博物館 News」や年間カレンダー、パンフレット等の広報印刷物を発行。</li> <li>・市民や利用者ニーズの把握のために、アンケートやモニタリン</li> </ul>

	グを行い、顧客満足度と市民ニーズを把握し、評価・改善のためのデータを作成する。
--	---

### (10) 出版

項目	内容
出版物の刊行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「横浜市歴史博物館資料目録」第35集</li> <li>・「紀要」第31号</li> <li>・企画展関連出版物（図録等）</li> </ul> 「資料目録」と「紀要」については、電子媒体で公開する。

### (11) 博物館実習・キャリア研修等の受入

項目	内容
中学校	中学校のキャリア教育の一環として実施される職場体験について、可能な範囲で受け入れる。
高等学校	高等学校でのキャリア教育の一環として実施されるインターンシップについて、希望する生徒を可能な範囲で受け入れる。
大学・大学院	博物館館務実習を始め、インターンシップや社会教育研修などを希望する大学生・大学院生を可能な範囲で受け入れる。

### (12) よこはま縁むすび講中事業の実施

当館が中核館となって令和3年度から実施している「よこはま縁むすび講中」事業について、令和8年度も引き続き実施したい。

本事業は市域の北部4区を対象として、エリアの各区の中心となるハブ施設として緑区：みどりアートパーク、青葉区：市民ギャラリーあざみ野、港北区：大倉精神文化研究所、都筑区：横浜市歴史博物館を設定し、それぞれの地域に存在する文化遺産を活用するイベント等の取り組みを実施するとともに、それらを対象地域の人々に情報を発信し、共有する地域文化圏の形成を図ることを目的とする。

当館では、「かやぶき屋根プロジェクト」を本事業に組み込んで実施していく。

## 6 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

### (1) インターネットによる文化財と催事情報の発信

館蔵資料や市域指定文化財の情報を発信するほか、催事情報や図書閲覧室の蔵書検索など公式ホームページを通じて発信する。より見やすいホームページへの改修を見据えた検討に着手する。

### (2) 収蔵資料のデジタルアーカイブ化および公開

令和7年度に構築した収蔵資料データベースの運用を開始する。また同年度に制作した公開用フロントサイトの運用を開始し、広く市民に収蔵資料の情報を公開する。

### (3) 多言語アプリおよび映像資料の普及

常設展示室内の展示について、5か国語（英語、ドイツ語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語）で解説する多言語アプリの周知につとめる。

### (4) 情報システムの保守管理

サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行う。

(5) メールマガジンやSNSの活用

メールマガジンやSNSを利用し、博物館の存在をより身近に感じるような広報を行なう。

(6) インターネット催事申込システムと学校団体予約システムの運用

市民ニーズを踏まえてインターネットを利用した催事申込システムならびに、学校団体予約システムを運用する。

## 7 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設について、適切かつ効率的に施設の維持管理を図る。

(1) 歴史博物館及び野外の施設維持

博物館は竣工から32年が経過し、経年劣化による不具合や故障が多発している。また開園から30年を経た野外施設についても復原建物や園路等の施設の劣化が著しいほか、樹木の老化が進み、倒木や落枝が発生している。これらについては市教委や公園事務所などの各関係機関と調整を図り、安全を最優先とし、対応を行う。

(2) 研修室・講堂等の貸出

(3) 区役所や周辺施設との連携を図りながら、帰宅困難者一時滞在施設として対応を行う。

## 8 収益事業（定款第4条第2項）

(1) ミュージアムショップの経営

子どもも大人も「わくわく」するミュージアムショップを目指し、企画展ごとの魅力ある商品選定と展示をより深く学べる関連書籍の充実を図る。いつ来ても新しい発見がある店内レイアウトや商品ディスプレイを心掛け、またオンラインショップの取り扱い商品を拡充し、ともに収益の増加を図る。

(2) 駐車場の運営

歴史博物館の来館者用駐車場を運営する。

来館者・大塚歳勝土遺跡公園来援者の利便性と効率化を図るため、営業日を年中無休とし、利用時間は博物館開館時間より長い8時～18時とする。管理は、キャッシュレス決済が利用できるコインパーキング運営会社に委託する。

(3) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、歴史博物館に自動販売機を設置し、飲料を販売する。

### 3 開港資料館事業

#### 〔取組の全体像〕

令和3年度から進めてきた「文化観光拠点計画」の事業が昨年度でひと区切りを迎え、第4期指定管理の初年度となる令和8年度は、拠点計画で得られた成果をもとに、「5館一体」となって各事業を進め、さらなる利用者層の拡大に向けて取り組んでいきます。

旧館（旧英国総領事館）では、英国総領事館時代の内装を復原した2階をあらたな展示室として公開し、横浜を訪れる内外の観光客に向けて、港周辺の伝統的な観光エリア（山下町、元町、中華街）に関する歴史を発信していきます。またバリアフリーデッキが完成した中庭の「たまくすの木」、旧館南側（県庁東庁舎側）の植栽整備で新設した「ローズテラス」など、歴史と緑に囲まれた環境を活かして、展示以外にも多様な来館者に向けた集客事業を展開して、収益向上につなげていきます。そして昨年度に取り組みをはじめた「たまくすの木」維持管理のための「御樹印」頒布に加えて、今年度は企業協賛の仕組みづくりを進めて、館全体の収益の底上げを図ります。

旧館への展示新設にともない、これまでの企画展示室（新館）は、常設展示室「展示室1」「展示室2」に続く「展示室3」として運用し、古文書・海外資料・浮世絵・絵地図・古写真等から、選りすぐりの館蔵資料を紹介していきます。そして資料特別公開として、歴史博物館の協力を得て、当館初公開となる豊臣秀吉文書をはじめ館蔵の中世文書を紹介する「横浜に遺る中世文書（仮）」展を開催します。

調査研究事業では、財団諸施設や外部研究者との連携研究を継続しておこないます。今年度は、神奈川県立歴史博物館と進めてきた幕末期横浜の絵図に関する調査研究の成果を、都市発展記念館を会場として、共催特別展「絵図で旅する幕末の横浜・日本（仮）」として公開します。

令和5年度に公開したデジタルアーカイブは、資料の公開点数が20万点を超えました。今年度も継続して館蔵資料のデジタル化に取り組み、デジタルアーカイブの拡充を進めるとともに、地域と連携した取り組みのなかで資料活用之机を積極的に広げていくことで、「横浜開港」の歴史の普及に努めます。

収益事業では、ミュージアムショップ&カフェ「PORTER'S LODGE」を拠点に、「たまくすの木」をモチーフにしたオリジナル商品や、インバウンドに人気の高い浮世絵、商標などの館蔵資料を用いたジクレープリント（高精細レプリカ）など、高価格帯の商品を充実させながら、「横浜開港」の歴史を伝える魅力的な商品ラインナップを揃えていきます。

日本大通りと山下公園通りが交差する要所に位置する開港資料館では、山下公園通り会や日本大通りエリアマネジメント協議会での活動を通じて、周辺エリアの企業・団体との連携を強化してきました。今年度も、歴史的な街並みを活かしたイベント「横浜スタチューミュージアム」を都市発展記念館・ユーラシア文化館と一体になって開催して、地域との連携をさらに強固なものとし、界隈の活性化に向けて取り組んでいきます。

#### 1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

##### （1）資料の収集

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	地域の貴重な歴史資料の流出・滅失・破損を防ぐため、市民に理解と協力を求めながら、積極的に資料の寄贈・寄託を受けます。
資料購入	展示・調査研究で活用できる近代横浜の歴史に関する国内外の歴史資料、書籍等を購入します。

## (2) 資料の整理・公開

収集した歴史資料を、それぞれ資料群に応じた分類方法によって整理し、目録を作成して閲覧利用に供します。また、館蔵資料のデジタル化を中心に、デジタルアーカイブの素材となる基礎資料の整備を継続します。

項 目	目的・内容
資料目録の作成・電子化	当館が所蔵する文書記録類（原資料・複製本）の目録を作成するとともに、電子化を行います。電子化した目録は、デジタルアーカイブで公開し、資料の閲覧、複製資料利用に便宜を図ります。
文書記録類のデジタル化	当館が所蔵する文書記録類の保存、原資料での収集ができない新出資料の収集およびデジタルアーカイブでの公開を見据えて、資料の撮影・デジタル化を進めます。
画像資料のデジタル化	当館が所蔵する画像資料（古地図・古写真・版本挿絵・洋書挿絵・新聞等）のうち、デジタル化が済んでいない資料の撮影・デジタル化を進めます。

## (3) 資料の保管

資料は、常時温度 20～22 度、湿度 50～55%を保った館内の収蔵庫で保管します。その他、大型の器物等資料は外部倉庫で保管し、マイクロフィルムについては保存環境が整った外部倉庫で保管します。資料の保存環境の維持管理を図るため、通年で収蔵庫や展示室、閲覧室などにおける昆虫やカビ、塵芥などの環境測定調査を実施し、劣化あるいは破損した資料は、必要に応じて専門業者に委託して補修を行います。

## (4) 資料等の貸出

収蔵資料の普及と有効利用を図るため、類似施設等での展覧会へ資料を貸し出します。

## 2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

資料館の活動の基盤となる調査研究を、近現代政治社会史、アーカイブズ学、幕末維新期の社会・生活史、近代欧米関係史等の分野にもとづき、(1) テーマ研究 (2) 財団施設間での連携研究 (3) 外部研究者との共同研究の3つの柱から継続的に実施します。

### (1) テーマ研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜開港資料館アーカイブの研究 (1/2年)	横浜開港資料館が所蔵する諸資料を閲覧・公開するためのシステムを再検討し、閲覧・資料利用の体制を整備するための研究	横浜開港資料館デジタルアーカイブに古文書・古写真・絵図面・図書・雑誌・新聞等の目録・画像データを公開します。あわせて商品開発や教育利用など、デ

		デジタルアーカイブの活用による産学連携の方法を検討します。
幕末期都市の政治社会史的研究（1／4年）	幕末期（1853～1868年）の都市横浜の社会情勢について、政治・外交の動静や他の開港都市・江戸も視野に入れながら、原資料の調査とその分析を実施します。	幕末期の横浜・江戸の政治・社会・生活の状況について、駐日アメリカ公使プラインの書簡（1863年分）から分析します。成果は当館紀要、2028年度特別展で公開します。
幕末維新期の絵図・古写真の調査研究（1／2年）	幕末～明治初期に制作された当館・他機関所蔵の絵図および古写真の分析を進め、当該期の横浜・日本各地の情景をより緻密に復元します。	幕末維新期に制作された横浜を描いた絵図について、当館と外部機関が所蔵する絵図の分析をおこない、2026年度特別展で成果を報告します。また、当館蔵・寄託古写真の調査研究をおこない、2027年度企画展で成果を報告します。
横浜近代欧米関係史（1／1年）	横浜の欧米外国人社会に関する調査・研究（YC&AC関係資料と関東大震災で被災した外国人の調査）	2025年度に寄託されたYC&AC関係資料について写真・理事会資料の分析を行い、2027年度の特別公開で成果を報告します。また震災関係の調査は古写真やアルバムなどから被害の実態を調査研究し、紀要等で成果を報告します。
近代横浜の博覧会研究（1／2年）	2027年開催の国際園芸博覧会関連展示に向けた、近代以降の横浜における博覧会関連資料の調査・研究	各施設が所蔵する博覧会関連資料および地域に眠る資料の発掘、関係者への聞き取り調査を行い、その成果を2027年度の展示で公開します。

## （2）連携研究事業

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設および外部研究者との連携研究を実施する。

項目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜幕末維新史研究会（1／4年）	幕末維新期横浜の政治・外交・社会等について、他機関所属の研究者とともに、原資料（古文書等）をもとに総合的な調査・研究を行い、講座・展覧会・書籍等で成果を報告します。	①当館・横浜市内外所在の幕末維新期横浜に関する原資料の所在確認・調査。 ②幕末維新期横浜に関する原資料の読解・分析。 ③幕末維新期の専門研究者と共同して研究報告会を開催。

<p>都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業 (1/2年)</p>	<p>幕末・明治・大正・昭和期における都市横浜の主要な施設をWEB上の歴史地図に表示し、あわせて古写真・浮世絵・絵葉書などの画像資料を同地図上に表示させるかたちで、近代都市横浜の地理空間を復元します。 ※神奈川県立歴史博物館との連携。</p>	<p>歴史地図の図上に表示する施設画像と解説文を修正して、ホームページで公開します。</p>
<p>横浜地域資料研究会(中山恒三郎研究会) (1/4年)</p>	<p>中山恒三郎家文書を中心とした横浜市北部地域の総合的な調査・研究を行います。</p>	<p>①中山恒三郎家文書の整理・調査 ②太陽合資会社関係資料の調査 ③中山家関係者への聞き取り調査</p>

### 3 常設展事業 (定款第4条第1項第1号②)

#### (1) 常設展示室

常設展示室1「横浜開港への道」、及び常設展示室2「街は語るー開化ヨコハマー」の維持管理を行います。当館から近隣の観光地への回遊性を高めるため、当館の資料をひも解きながら周辺エリアの歴史をめぐる多言語ウェブコンテンツ「こい旅・横浜」の活用を促進します。

拠点計画事業による旧館内への展示新設にともない、従来の企画展示室は、常設展示室の延長として多彩な館蔵資料を紹介する「展示室3」として運用を開始します。

#### (2) 旧館の活用

これまで執務スペースとして利用していた旧館2階部分に、港周辺の伝統的な観光エリア(山下町、元町、中華街)の歴史を発信する展示室を一般公開します。また1階記念ホール等を活用した普及事業やイベントを実施します。



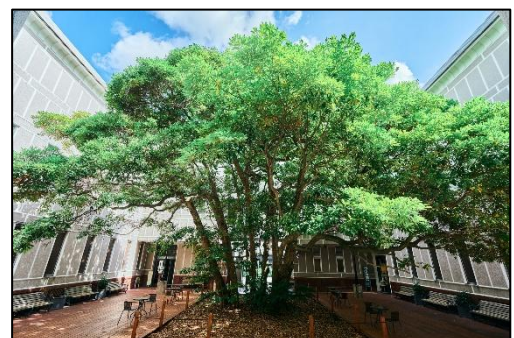
旧館記念ホール

今年度は旧館記念ホール・旧館長室を会場として、メルボルン大学と連携した英連邦戦没者墓地に関する展示を行います。

また、昭和100年記念展示として、旧館2階ギャラリー(旧研究会室)を会場に、戦後横浜の写真を多く撮影した写真家・広瀬始親の写真展を開催します。

#### (3) 中庭の活用

横浜市地域史跡であり、横浜開港のシンボルである「たまくすの木」を通じて、開港資料館が立地する「横浜開港の地」の歴史について、来館者に広く伝えます。また「たまくすの木」の樹勢を維持し、長寿命化を図るため、日本樹木医学会神奈川県支部と締結した協定にもとづき、適切なメンテナンスを実施します。今年度は、昨年度完成した「たまくすの木」周辺のバリアフリーデッキを活用した事業を実施し、より多くの来館者に「たまくすの木」の歴史とその魅力を伝えます。



たまくすの木

#### (4) 館蔵資料の公開

新収蔵資料や話題性のある館蔵資料をもとに、リニューアルした「展示室3」を会場として、資料特別

公開やコレクション展示を実施します。

#### (5) 展示等事業の広報、情報発信

項目	内容
広報誌発行	館報「開港のひろば」(A4判、12頁)の発行(年2回予定)。
リーフレット類作成	開港資料館案内パンフレット等の作成
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館ホームページやメールニュース、展示情報掲載サイト等への情報掲載による広報</li> <li>・SNS(X、Facebook、インスタグラム)を活用した情報発信</li> <li>・リリース配信サービスを利用した幅広い層へのPR</li> <li>・外部企業と協働した戦略的な広報の展開</li> </ul> <p style="text-align: center;">※横浜高速鉄道と連携したみなとみらい線沿線での広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞・雑誌・ラジオ等メディアへの記事掲載・話題提供・出演による広報</li> <li>・市内観光案内所、ホテル、横浜市PRボックス、小中高等学校、大学等へのチラシ配布</li> </ul>

## 4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

### (1) 資料特別公開の実施

展示名称(仮称)／開催期間	基本観覧想定数	目的・内容
<b>特別公開「横浜の記憶－多彩な館蔵資料－」(仮称)</b> 2026(令和8)年4月1日(水)～7月20日(月) ※開催日数96日	17,200人 (180人/日)	横浜開港資料館展示室3リニューアルに伴い、当館所蔵の古文書、海外資料、絵地図、古写真と絵葉書、瓦版・浮世絵の各テーマより、優品の原資料を展示するとともに、所蔵する商標資料の特別公開を行います。
<b>特別公開「横浜に遺る中世文書」(仮称)</b> 2026(令和8)年9月19日(土)～12月25日(金) ※開催日数85日	12,800人 (150人/日)	当館では「開港」以降に限らず、横浜市域の旧家に伝来した小田原北条氏・秀吉文書なども収蔵しています。中世から続く横浜の旧家と当館の資料収集の活動を広く知ってもらうとともに、横浜の歴史資料を後世に残すべく活動した郷土史家栗原清一と石井光太郎の2人を紹介します。 <b>※横浜市歴史博物館との連携</b>

### (2) 特別展「絵図で旅する幕末の横浜」(仮称)の実施

#### ※横浜都市発展記念館との共催

安政元年(1854)、横浜村にペリーが上陸。安政6年(1859)には外国人居留地が開かれ、村はわずか10年ほどのあいだで国際貿易都市として急速に発展していきます。この時期、横浜を描いた絵図が多く民間の版元から刊行されるとともに、幕府、大名、外国人等によって、実に多種多様な地図が制作されました。それらの地図からは、幕末期の都市横浜の発展を事細かにたどることができます。本展では幕末期の横浜を対象とした絵図を集成して、その変化をわかりやすく紹介します。

会期：2026(令和8)年7月18日(土)～9月27日(月祝) ※開催日数62日

会場：横浜都市発展記念館 企画展示室

### (3) 「保土ヶ谷のユーカリ」展（英連邦戦死者墓地に関する展示）の実施

#### ※メルボルン大学との共催事業

第二次世界大戦中、日本軍の捕虜となったオーストラリア兵は、国内各地の収捕虜容所に収容され工場労働などに従事しました。横浜でも鶴見区の東京第14分所に多くの兵士が収容され、米軍による空襲で犠牲者が生じています。このような犠牲者を慰霊するために建設されたのが、保土ヶ谷区の英連邦戦死者墓地です。この墓地には日本で戦没した英連邦軍人1,555名の遺骨が安置され、オーストラリア区には281の墓が存在します。本展では、英連邦にゆかりの深い横浜開港資料館旧館を会場として、英連邦戦死者墓地の歴史について、メルボルン大学が作成したパネルと映像から紹介します。

会期：2026（令和8）年4月25日（土）～10月25日（日）※開催日数158日

会場：横浜開港資料館 旧館記念ホール・旧館長室

### (4) 昭和100年記念「広瀬始親写真展—昭和の背中—」の実施

本年は昭和100年の節目の年です。横浜開港資料館では、戦後横浜の情景を撮影した写真家広瀬始親氏の作品を数多く収蔵しています。本展では昭和100年を記念して、広瀬始親撮影写真から昭和の横浜を偲ぶ作品をパネルで展示します。

会期：2026（令和8）年7月18日（土）～9月27日（日）※開催日数62日

会場：横浜開港資料館 旧館2階旧研究会室

### (5) 講座・講演会ほか

項目	目的・内容
講座・講演会の実施	資料特別公開などの事業にあわせて、外部講師を招いての講座・講演会や、見どころをわかりやすく紹介する展示解説を実施します。
SNSを活用した普及事業	X（旧Twitter）での資料紹介や公式Facebook、公式YouTubeチャンネルを通じて、展示内容や収蔵資料に関する情報発信を行います。
市民団体との共催事業の実施	NPO法人横浜シティガイド協会など市民団体との共催事業として、講座やガイドツアー等を実施します。
大学・研究機関等との連携事業	大学・研究機関等との連携事業として、共同の調査研究事業にもとづいた講座・講演会・シンポジウム等を実施します。

### (6) 出版物の作成

資料収集や整理、調査研究、企画展などの資料館事業の成果を広く市民に紹介するため、各種出版物を作成し頒布します。

- ＜出版予定＞
- ①館報「開港のひろば」161号、162号の発行
  - ②研究紀要の発行 『横浜開港資料館紀要』第41号  
紀要については、随時電子媒体（PDF）による公開をおこないます。
  - ③展示関連の出版物・印刷物の発行  
『絵図で旅する幕末の横浜』（2026年7月発行予定）  
『横浜に遺る中世文書』（2026年9月発行予定）

### (7) 資料閲覧室の運営

閲覧室において、原資料もしくは複製本の形で収蔵資料を一般閲覧に供し、横浜の歴史及び資料に関

する一般からの問い合わせに対して、専門職員によるレファレンス・サービスを行います。またデジタルアーカイブを活用して、館蔵資料のデジタルデータの公開を進めます。

## (8) 複製資料の提供

市民や地方自治体、学校、企業（出版社、新聞社、テレビ局など）の求めに応じて、所蔵資料の複製（デジタルデータ）を提供し、これにより資料情報の発信を促進します。また**デジタルアーカイブと連動した申請方法を検討し、複製資料の利用促進を図ります。**

利用目標件数 400 件 / 利用目標資料点数 1,200 点

## (9) 市民協働・学校連携・博物館連携 他

### (ア) 横浜郷土史団体連絡協議会の活動への支援

郷土史に関心を持つ団体が情報交換し、広範な活動ができるように、当館が中心となって設立した**横浜郷土史団体連絡協議会（現在、市内 34 団体）**とともに、協働事業（講座・研修会等）を展開します。事務局は当館と歴史博物館の職員が担当します。

### (イ) 学校・研究団体、NPO法人、企業・商工団体、ボランティアガイド団体等との協働事業

地域事業者の団体（山下公園通り会、元町 SS 会、横浜中華街発展会、馬車道通り会等）との連携事業として、毎年 5 月下旬に開催される**ハマフェス**に都市発展記念館・ユーラシア文化館とともに参加して、**地域の賑わい創出に貢献**します。当日は無料開館とし、資料館の活動への理解促進と来館者増を図ります。また日本大通り界隈の事業者が加盟する「日本大通りエリアマネジメント協議会」の活動を通して、地域事業者との連携を強化しつつ、積極的に地域のイベントに参加します。

### (ウ) 主要な高等学校との連携事業として、神奈川県内の公立高等学校の社会科学関連のクラブによって構成される**神奈川県高等学校文化連盟（神奈川県高文連）**の社会科学専門部会と提携し、展示見学の受け入れ、研究会場の提供、研究活動への助言等をおこないます。

### (エ) 広報よこはま中区版で連載中の「なか区歴史の散歩道」のほか、広報よこはま市版連載「よこはま彩発見」、区制 100 周年に向けた広報よこはま保土ヶ谷区版や神奈川区版での連載記事等、市役所や各区との連携・協力を進めます。また、横浜港振興協会とは、同会機関誌「よこはま港」に横浜の歴史に関する記事を掲載するなど関係を強化します。

### (オ) 首都圏形成史研究会などの学術団体と連携します。

### (カ) 神奈川県博物館協会や神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会など業界団体と連携します。

## (10) 外部組織への資料提供および助言・監修

### (ア) マスコミ等への企画協力・情報提供

新聞社・テレビ局・ラジオ等が企画する記事・番組への監修協力や情報提供・出演を行います。

### (イ) 助言・監修

公共施設や地域企業へ資料を提供するとともに、その作成物について助言・監修を行います。

## (11) 学芸員実習

学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れます。受入数：8 名（予定）

## (12) 各種情報のホームページ・SNS などによる発信等

### (ア) ホームページ・SNS による情報発信

ホームページや公式 X、公式 Facebook、公式インスタグラムを通じて、新規閲覧公開資料や開館時間、アクセス、展示や講座、出版、イベントなど、最新の資料館情報を提供します。

アクセス目標件数 120,000 件

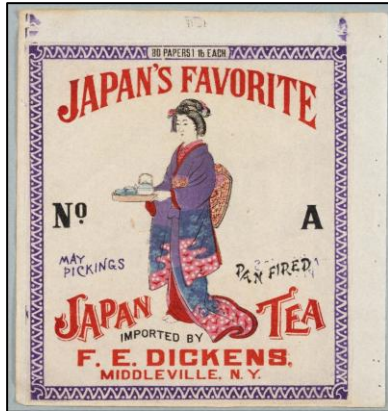
(イ) メールニュースによる情報発信

展示、講座などの催し物情報を希望者にメールニュースで発信します。

発信先：約 1,600 件

(ウ) デジタルアーカイブによる情報公開

デジタルアーカイブを通じて収蔵資料(図書・雑誌を含む)の目録・画像データを随時公開します。



茶商標



デジタルアーカイブ

## 5 旧館活性化事業

開港資料館にとって館蔵資料とならぶ重要な歴史資産である旧館(旧英国総領事館)および旧門番所の建物(いずれも横浜市指定文化財)を、関内エリアのあらたな文化観光拠点としてより幅広く活用していくための、施設整備や普及事業を実施します。多様な来館者を受け入れることを前提に、施設の修繕やバリアフリー化、案内サインや植栽の整備など、幅広い視点での事業を継続します。

### (1) 旧館の展示公開

昨年度整備をおこなった、旧館 2 階および 1 階記念室(旧総領事室)のあらたな展示ゾーンを公開し、年間を通じて、文化財としての建物の魅力と港周辺の観光地(山下町・中華街・元町等)の歴史に関する情報を発信します。新設された展示ゾーンへは、バリアフリー対策として設置した連絡通路を通じて、新館 2 階から旧館 2 階へアプローチします。またこれまで開港記念日を中心に限定で公開していた 1 階記念室は、今年度から常時公開とします。

### (2) 外構部分の整備

横浜市のみどりアップ事業として植栽整備をおこなった旧館南側(神奈川県庁東庁舎側)の外構部分は、イギリス領事館時代からの由来をもつバラの花を設えた「ローズテラス」を中心に、歴史と緑にあふれた敷地の魅力を発信していきます。また今後県庁側からも来館者が開港資料館の敷地内にアプローチできるよう、管理に関して神奈川県・横浜市の担当部局と協議を進めます。

### (3) 旧館や中庭を活用したイベントの実施

旧館 1 階の記念ホールを活用したパネル展示や、旧館や旧門番所をラリーポイントとしたデジタルスタンプラリーへの参加など、歴史ある旧館の雰囲気を活かした各種イベントを実施します。また中庭の「たまくすの木」周辺に新設したバリアフリーデッキを活用した集客事業を実施して、多くの来場者に、当館の敷地と建物がもつ歴史と魅力を伝えます。

### (4) 中庭の整備

横浜の歴史のシンボルである「たまくすの木」の樹勢を維持し、長寿命化を図るため、日本樹木医会神

奈川県支部と締結した協定にもとづき、横浜市関係部局とも連携しながら、適切なメンテナンスを行います。また継続的なメンテナンス実施のため、昨年度から引き続き「御樹印」の頒布による寄附金収入を得て、メンテナンス費用の一助とします。

## 6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

施設の老朽化が進んでいるため、優先度の高い修繕項目を見極め、上記の旧館活性化事業と連動しながら、計画的な修繕を実施することで施設の保全を図ります。

## 7 収益事業（定款第4条第2項）

### （1）ミュージアムショップ&カフェ「PORTER'S LODGE」の経営

文化観光拠点計画の事業として、市指定文化財である旧門番所にオープンしたミュージアムショップ&カフェ「PORTER'S LODGE」を拠点として、展示図録、資料目録などの刊行物、オリジナルグッズ等の販売に加え、館蔵資料をモチーフとして、横浜の歴史や地域にまつわる魅力ある商品を開発し、販売します。クラウドファンディングのリターンとして販売実績のあるジクレープリント技術を活用した、浮世絵・商標ラベルのジクレエ作品の受注販売をおこない、更なる収入増加を図ります。

### （2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、敷地内に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売します。



ミュージアムショップ&カフェ「PORTER'S LODGE」



「たまくすの木」  
ミルフィーユ

## 4 都市発展記念館事業

### 〔取組の全体像〕

横浜都市発展記念館では、「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の三つの事業の柱をもとに、昭和期横浜の歴史に関する資料収集、調査研究、企画普及等の事業を進めてきました。第4期指定管理期間の初年度にあたる令和8年度は、指定管理のキーワードである「5館一体」を念頭に、各事業の取り組みを進めます。今年度からは、受付・ミュージアムショップのあり方を「再構築」し、開港資料館と一体的に業務委託することで効率的な運営を図ります。

令和8年度の企画展事業では、「昭和100年」をテーマに、歴史博物館の「昭和100年展（仮）」と連携しながら、当館の戦後写真コレクションの核である奥村泰宏・常盤とよ子・

五十嵐英寿の3氏の撮影写真をもとに、昭和100年記念の写真パネル展を開催します。横浜の戦後史をふり返りながら、戦後横浜の様々な社会問題に切り込んだ写真家たちの視点から、彼らの作品を紹介します。

また開港資料館の企画展示室が、同館の館蔵資料を公開する「展示室3」としてリニューアルすることを受けて、都市発展記念館の企画展示室では、より幅広い時代とテーマを取り扱う特別展の会場としても運用していきます。今年度は開港資料館との共催特別展「絵図で旅する幕末の横浜・日本（仮）」を開催し、幕末期横浜の絵図に関する開港資料館の共同研究の成果を公開します。

都市発展記念館では、絵葉書・地図・戦後写真など人気の高い画像史料のホームページ公開を進めてきました。今年度は、昭和100年記念の展覧会開催にあわせて「戦後横浜写真アーカイブズ」の公開資料をさらに拡充するとともに、開港資料館・歴史博物館で先行しているデジタルアーカイブとの連動を見据えて、データベース項目の検討作業を進めていきます。また引き続き、横浜の貴重な戦後史を記録した映像資料「神奈川ニュース」の公開を促進して、戦後史資料の一層の普及を図ります。

調査研究事業では、上記写真パネル展に関連して、戦後写真の整理と分析を継続するとともに、令和9年度（2027年）に予定されている国際園芸博覧会開催、区制100年記念事業に向けた資料調査も進めていきます。

収益事業では、横浜市認定歴史的建造物である「旧横浜市外電話局」を活用することで、商業撮影や企業協賛による収益向上を図るとともに、地域のなかでの存在感をより高めていくことを目指します。

そして地域のイベントとして定着しつつある「横浜スタチューミュージアム」を、ユーラシア文化館・開港資料館と一体となって開催し、3館が加盟する山下公園通り会や日本大通りエリアマネジメント協議会の活動を通じて、地域の企業・団体とともに賑わい創出に貢献していきます。

## 1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

昭和期を中心に、都市横浜のあゆみに関する資料を収集するとともに、ホームページを利用して資料画像・映像資料の公開を進めます。

### （1）資料の収集と保管

項目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	昭和期を中心に「都市形成」、「市民の暮らし」、「横浜の文化」に関する資料が散逸しないように、開港資料館・市史資料室と連携して地域に残る資料を発掘し、積極的に寄贈・寄託を受け入れます。
資料購入	昭和期を中心に「都市形成」、「市民の暮らし」、「横浜の文化」に関する資料を収集します。
複製による資料収集	原資料で収集できないものをデジタル撮影により収集します。
資料修繕	傷みの激しい資料は専門業者に委託して修復を行います。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管します。収蔵庫に収まらない器物等の大型資料は、外部倉庫を賃借して保管します。所蔵資

	料の情報はデータベースに入力し管理します。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査をユースシア文化館と共同して定期的に行います。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努めます。

## (2) 資料の整理・公開

収集した資料はそれぞれ資料群に応じた分類方法によって整理し、目録を作成します。また、館蔵資料から絵葉書・写真・地図など画像資料のデジタル化を進め、ホームページ上の「絵葉書データベース」「地図データベース」「戦後の横浜」などで公開します。今年度は、昭和100年記念写真展の開催と連動して、「戦後横浜写真アーカイブズ」での公開資料を拡充します。映像資料では、YouTubeチャンネルで戦後のニュース映像の公開を進めるとともに、「神奈川ニュース」の公開用目録を整備します。

また将来的なデジタルアーカイブの構築に向けた作業として、館蔵資料のデータベース項目の検討を進めるとともに、当館の重要な戦後写真コレクションである五十嵐英壽・奥村泰弘・常盤とよ子の撮影写真の画像資料目録を整備します。

## (3) 複製資料の提供

複製資料(所蔵資料の画像データ)を提供し、出版・放送・展示や市民の学習など、各種用途での利用に応じます。



横浜絵葉書データベース



戦後横浜写真アーカイブズ

## 2 調査研究事業(定款第4条第1項第1号①)

昭和期横浜の歴史を中心に、都市形成史、都市経済産業史、都市生活・文化史等の分野にもとづく調査研究をおこない、その成果を事業に活用します。(1)は各テーマにもとづく基礎資料の調査・収集を目的とし、(2)は財団諸施設や外部研究者との連携により調査研究を深めることを目的とし、その成果は展示や出版事業で活用します。

### (1) 調査研究

項目	目的・内容	今年度の成果目標
----	-------	----------

関東大震災からの復興と「大横浜」の形成に関する調査研究 (1/4年次)	関東大震災後から第2次世界大戦に至る時期の横浜の都市形成史を政治社会史の視点から明らかにします。	2029(令和11)年の横浜の震災復興100年を見据えつつ、関東大震災100年を契機に集まった関連資料の整理、分析作業を進めます。
横浜近郊農村の都市化に関する調査研究 (1/4年次)	高度経済成長期までを視野に入れつつ、横浜近郊農村の都市化の過程を政治社会史の視点から明らかにします。	都筑区川和町の中山恒三郎家資料の整理・調査を進めると同時に、東横線沿線の地域(旧橘樹郡の村々)について基礎的な調査を進めます。
京浜工業地帯の形成史に関する調査研究 (1/4年次)	京浜工業地帯の形成と、工業地帯形成に伴う鶴見・川崎、神奈川地域の諸動向について、政治・経済・文化の視点から多角的に明らかにします。	京浜工業地帯に関する資料の収集・整理を進めます。また、工業地帯形成に至る鶴見、神奈川の埋め立て、開発について調査を進めます。
占領期横浜に関する調査研究(1/4年次)	接収から復興に至る戦後の横浜の都市の諸動向を、政治・経済・文化の視点から多角的に明らかにします。	接収、闇市、戦後占領期の社会問題に関する資料の調査・整理を進めます。また、館蔵戦後写真の分析を進め、その成果を2026年度の昭和100年写真パネル展で公開します。
近代横浜の博覧会研究 (1/2年次)	2027年開催の国際園芸博覧会関連展示に向けた、近代以降の横浜における博覧会関連資料の調査・研究	各施設が所蔵する博覧会関連資料および地域に眠る資料の発掘、関係者への聞き取り調査を行い、その成果を2027年度の展示で公開します。

## (2) 連携研究事業

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理運営する諸施設および外部研究者との連携研究を実施します。

### ① 中山恒三郎家文書の活用事業

都筑区川和町の旧家・中山恒三郎家の資料整理を、開港資料館・歴史博物館と連携して進めるとともに、中山恒三郎家と協働して、中山恒三郎家の書院・店蔵(市認定歴史的建造物)および諸味蔵等の公開事業を行います。

### ② 建築家中村順平に関する基礎的研究

横浜高等工業学校建築科(現・横浜国立大学工学部建築学科)の主任教授を務めた建築家中村順平に関する資料の収集・整理および関係者へのヒアリング調査を、外部研究者と連携して実施します。

### ③ 建築家遠藤於菟に関する共同研究

浅野工学専門学校(鶴見区)で発見された建築家遠藤於菟の関係資料について、2027年の同校創立100周年に向けて、同校と共同で資料整理を進めます。

## (3) 研究紀要の発行

調査研究成果をまとめて『横浜都市発展記念館紀要』第19号を発行します。

紀要については、電子媒体(PDF)による公開を順次実施します。

## 3 常設展事業(定款第4条第1項第1号②)

- (1) 常設展示の運営と展示設備の維持管理をおこないます。
- (2) 「旧横浜市外電話局」の積極的な公開・活用をおこないます。  
歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関を活かした普及事業を企画します。また無料開館日のイベントとして、普段は入れない箇所の見学を含めた建物ツアーを実施します。
- (3) 常設展示室の一面を使って、**新収蔵資料や話題性のある館蔵コレクションを中心としたコーナー展示**を開催します。

#### 4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

##### (1) 企画展

展示名称（仮称）／開催期間	想定観覧者数	目的・内容
<b>特別展「絵図で旅する幕末の横浜」</b> （仮称） ※横浜都市発展記念館との合同展示 2026（令和8）年7月18日（土）～9月27日（月祝） ※開催日数62日	5,300人 (85人/日)	安政元年（1854）、横浜村にペリーが上陸。安政6年（1859）には外国人居留地が開かれ、村はわずか10年ほどのあいだで国際貿易都市として急速に発展していきます。この時期、横浜を描いた絵図が多く民間の版元から刊行されるとともに、幕府、大名、外国人等によって、実に多種多様な地図が制作されました。それらの地図からは、幕末期の都市横浜の発展を事細かにたどることができます。本展では幕末期の横浜を対象とした絵図を集成して、その変化をわかりやすく紹介します。
<b>「昭和100年記念写真展」</b> （仮称） 2026（令和8）年10月10日（土）～12月27日（日） ※会期68日（開館日数）	5,100人 (75人/日)	令和8年（2026年）は、昭和元年（1926年）から起算して満100年を迎える節目の年です。当館では、現在までに収集した、五十嵐英寿・奥村泰宏・常盤とよ子撮影写真から、横浜の昭和戦後期の歴史を振り返ると共に、様々な社会問題に切り込んだ作品を紹介します。

##### (2) 普及啓発

項目	目的・内容
SNSを活用した普及事業	X（旧Twitter）での資料紹介や公式Facebookや公式YouTubeチャンネルを通じて、展示内容や収蔵資料に関する情報発信を行います。
写真パネル展の開催	1階ギャラリーや旧第一玄関等を活用し、資料収集及び調査研究の成果を発信します。
ワークショップの開催	活動支援ボランティアの参加を得て、企画展や昭和の時代に関連したワークショップを実施します。



常設展示室コーナー展



SNS を活用した情報発信

### (3) 集客イベント

項目	内容
ハマフェスY167への参加	ハマフェスY167（5月下旬開催）にユーラシア文化館・開港資料館とともに参加し、元町SS会、横浜中華街発展会、馬車道通り会などの地元商業団体と連携して、地域の賑わい創出と集客増を図ります。同日は無料開館日とし、また山下公園通りを会場として「横浜スタチューミュージアム」を開催します。 *ユーラシア文化館、開港資料館との連携事業
横浜スタチューミュージアムの開催	スタチューパフォーマンス協会の協力を得て、日本大通り界隈の秋のイベントとして「横浜スタチューミュージアム」を開催する。 *ユーラシア文化館、開港資料館との連携事業
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日を無料開館日とし、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施します。
開館祭	ユーラシア文化館との共催で、3月15日の開館記念日前後に無料開館日を設けて、市民感謝イベントを実施します。

### (4) 市民協働

項目	内容
ボランティアとの協働	企画展開催中の週末および開館記念イベント等の機会に、活動支援ボランティアの参加を得て、各種ワークショップを実施します。
市民団体との共催事業の実施	NPO法人横浜シティガイド協会など市民団体との共催事業として、講座やガイドツアー等を実施します。

### (5) 地域・行政との連携

項目	目的・内容
地域事業者との連携	・日本大通り界隈の事業者が加盟する日本大通リエリアマネジメント協議会に参加し、日本大通り周辺の賑わい創出および都市発展記念館・ユーラシア

	<p>文化館への観光客の誘致を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山下公園通りの事業者が加盟する山下公園通り会の事業に参加し、山下町周辺の賑わい創出および都市発展記念館・ユーラシア文化館への観光客の誘致を図ります。</li> </ul>
区役所・市役所が実施する事業への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中区に関する歴史資料を紹介する記事「なか区 歴史の散歩道」を「広報よこはま 中区版」に開港資料館と共同で連載します。</li> <li>・広報よこはま市版コラム「よこはま彩発見」の記事連載に協力します。</li> <li>・区政 100 年（2027 年）に向けて、広報よこはま保土ヶ谷区版や神奈川区版での連載記事に協力します。</li> </ul>

#### （6）学校連携

項 目	目的・内容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れます。定員 4 名。
市内学校団体見学の受け入れ	小学校 4 年生を対象に、「吉田新田とその後」をテーマにした解説つき展示案内を実施し、市内学校団体を誘致します。
学校連携事業	法人エドゥケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、学習指導に適した教材などのレファレンスを行います。

#### （7）広報活動

項 目	内 容
広報誌発行	『ハマ発Newsletter』の編集・発行（44～45号、年2回）
印刷物作成	企画展示案内（ポスター・チラシ）、「催し物案内」（リーフレット）の作成
ホームページの運営	ホームページを利用して最新情報の案内、展示内容の紹介、所蔵資料の画像データの公開などを行います。
メールニュースの配信	希望者に最新情報の案内をメールで配信します。
S N Sによる情報発信	公式Xや公式Facebookを活用して、館の魅力や資料案内、職員の活動などを日常的に発信します。
マスコミ対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リリース配信サービスを利用した幅広い層への情報発信</li> <li>・放送（テレビ、ラジオ等）、新聞・雑誌（タウン誌などを含む）の取材対応と情報の提供</li> <li>・フィルムコミッションへの協力</li> <li>・広告の掲出（新聞・雑誌、地下鉄車内など）</li> </ul>
外部機関との提携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜高速鉄道と連携したみなとみらい線沿線での広報</li> <li>・鉄道駅構内へのポスター掲出、チラシ等配置</li> <li>・観光案内所、ホテル、旅行代理店などへの印刷物配布</li> <li>・観光・地域振興等関連団体への参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>日本大通りエリアマネジメント協議会・山下公園通り会での活動</li> <li>ハマフェスなど地域の大型イベントへの参加</li> </ul> </li> </ul>

## 5 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜都市発展記念館については、これまでと同様、適正な施設・設備の維持管理を行っていきます。

老朽化した高電圧機器や給水・排水設備への対応等、設備の維持管理上の課題については、横浜市教育委員会・横浜市建築局と調整のうえ、適切に対処していきます。また、館内の温湿度管理や清掃、環境調査等を適正に行うことで、収蔵資料の適切な保管環境を維持します。

## 6 収益事業（定款第4条第2項）

### （1）ミュージアムショップの経営

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、展示図録・研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵資料の複製等の販売を行います。

オンラインショップを積極的に活用し、SNS(X・YouTube)を連動させ相互の閲覧を促進させるとともに、収益の向上を図ってゆきます。

### （2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館内に飲料自動販売機を設置して、飲み物を販売します。

## 5 ユーラシア文化館事業

### [取組の全体像]

令和8年度は新たな指定管理の初年度となることから提案書に基づき集客の強化や魅力的な展示の展開、博物館への児童生徒の受入れ、地域連携による活性化、指定管理料以外の収入獲得などの取組を進めてまいります。

ユーラシア文化館では、「横浜で世界とつながる」をコンセプトに、国際文化都市横浜の多文化共生社会の進展と、市民のユーラシア文化への理解促進に寄与するため、調査研究、展示、出版、講演会、イベントなどを実施するとともに、地域と連携してスタチューミュージアムや各種イベントを通じて地域の活性化の取組を進めてまいります。また、調査研究では、ユーラシア地域における東西文化交流や多文化共生都市としての横浜の歴史や文化に関わる調査研究を進め、その成果を紀要や広報誌などで発信していきます。

魅力的な展示の展開については、常設展の魅力アップとして、季節や企画展に合わせて展示品の一部入れ替えを行います。企画展と関連したものや、その年の干支にちなんだものなどを展示して限られたスペースを有効に活用します。また、企画展では時宣をとらえ集客が見込まれる展示を行います。4月からは横浜市・釜山広域市パートナー都市提携20周年を記念し、韓国の伝統手工芸品の美と技を紹介します。また、令和9年1月からは、敦煌莫高窟世界遺産登録40周年を記念し、江上コレクションなどから莫高窟仏教絵画の魅力と日本人のシルクロードへの憧れについてとりあげます。企画展にあわせて、講演会などを開催し、市民の方が親しみながらユーラシア文化の理解を深める活動を実施します。

児童生徒の博物館への受入れについては、博物館の強みを活かし、校外学習の場として横浜の発展の礎となった吉田新田の解説を行い団体利用の促進に努めています。

地域連携の推進による地域活性化について、「横浜スタチュー・ミュージアム」は6回目を迎え、「横浜の風物詩として年々期待が高まっています。今年度はユーラシア文化館・都市発展記念館・開港資料館の共催事業として実施するとともに、山下公園通り会、横浜中華街発展会、横浜媽祖廟、日本大通リエリアマネジメント協会などの地域団体と連携し、横浜市中心部の活性化に取り組んでまいります。

また、地域の企業と連携した取組も進めます。中華街のホテルや飲食店と協働で春節など地域の行事にちなんだイベントなどを行い当館のPRと中華街の賑わい創出を手伝ってまいります。

今後も様々な取組を通じて、街を舞台とする「街に出ていく博物館」として、地元諸団体や企業などと連携し、地域社会の文化創造に貢献していきます。

## 1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

### （1）資料収集・保存

項 目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
資料購入	展示で活用しうる資料や、調査研究に資する資料を収集する。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
資料修繕	文献・資料の修復を行う。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査を都市発展記念館と共同して定期的に行う。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努める。

### （2）資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討、整理し、館蔵資料データベースを拡充する。

### （3）文献資料の整理

考古・美術資料と並ぶ所蔵資料の柱である文献資料の公開に向け、整理・分類を継続する。整理が終わったものから順次公開していく。

項 目	目的・内容
バジル・グレイ旧蔵書・洋図書・洋雑誌・和図書	蔵書の分類を継続する。
寄贈及び購入の図書、雑誌	書誌データを入力し、データベースを構築する。インターネットでの蔵書検索（OPAC公開）を拡充する。

## 2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

### （1）調査研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
ユーラシアにおける工芸品の研究 (4/5年)	東西交易の中継地となった中央アジアの工芸品の歴史とそこに关わる人々や日本との関係について研究する。	①国内外の博物館等で所蔵するウズベキスタンの陶器やガラスを調査する。 ②中央アジアの伝統技術に関する情報を収集する。
ユーラシアにおける人形製品の研究 (5/5年)	宗教や儀礼に关わる遺物として注目されてきた人形製品(土製品・石製品等)について、比較考古学的な観点からの研究を行う。	①財団機関が所蔵する人形製品を調査する。 ②国内機関に所蔵されているユーラシア各地出土の人形製品の情報を収集し、調査する。

横浜市内の外国系市民の歴史文化に関する研究（5／5年）	横浜に暮らす様々な国籍や民族の呼びの歴史、風俗などに付いて研究し、市民の多文化共生への理解を促進する。	①個人・機関が所蔵する関連資料の調査。 ②研究成果を展示や館の広報物で発信する。
ユーラシアにおける古代・中世日本の研究（5／5年）	中国・北アジア・中央アジア・マンチュリアなどユーラシア大陸東部の諸地域と、古代・中世日本との政治的・文化的関係について研究する。	① 館外の研究者・研究団体と連携する。 ② 日本列島への馬匹文化について再検討を進める。
バジル・グレイ氏旧蔵書に関する研究（2／5年）	大英博物館学芸部長であったバジル・グレイ氏の蔵書と関連する手紙・文書類を通して、ペルシア美術の研究史での位置づけと、日本との関わりを外部研究者と共同で研究する。	①ペルシア美術等の文献資料とそれに関わる美術・考古資料等を調査する。 ③ 手紙・文書類を整理・解読する。
令和8年度以降開催予定の企画展調査	令和8年度以降の企画展開催のために資料調査などを行う。	ユーラシアの人形などに関する資料調査を行う。

## （2）資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行うとともに、順次資料画像などをデジタルアーカイブズで公開する。

## 3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

### （1）常設展示室の維持管理を行う。

（基本観覧想定数 19,000人）

- （2）ニュース性、企画展示とのつながり、関連機関との連携、市の施策を考慮に入れた展示替えを行う。
- （3）クイズラリーやスケッチなど常設展示室でのミニイベントを企画する。
- （4）常設展示室を活用し学校との連携を試行的に行っていく。また、グローバル人材育成として、教育委員会の進める高校生のグローバル人材育成プログラムに協力していく。
- （5）研究成果としての収蔵資料の特別公開、市民寄贈資料のお披露目展示、大学教育と連携した資料展示など、常設展示室を利用したスポット展示を行う。
- （6）都市発展記念館と連携して、歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関、新たに整備した中庭などを活かした企画を実施し、常設展示室の集客につなげる。

## 4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

### （1）企画展

企画展名称（仮称）／開催期間	基本観覧想定数	目的・内容
「韓国 手仕事の美事」 令和8年4月25日（土）～令和8	5,000人	横浜市・釜山広域市パートナー都市提携20周年を記念し、元釜山首席領事夫妻の伝統的手工芸

年7月5日(日) *会期70日		品のコレクションを展示し、韓国の生活の中の美意識を紹介する。
「敦煌莫高窟絵画展」(仮称) 令和9年1月16日(土)～ 3月28日(月・祝) *会期62日	4,500人	敦煌莫高窟の世界遺産登録40周年記念し、図録「千仏」を中心に、莫高窟絵画の魅力と、シルクロードへの日本人の憧れを紹介する。

(2) 講座・講演会等

項 目	内 容
「韓国 手仕事の美事」関連連続講座	韓国の伝統的手工芸品の歴史などに関する連続講座を開催する。
「敦煌莫高窟絵画展」(仮称) 展関連講演会	敦煌の仏教美術に関する講演会を開催する。
動画・SNS等の発信について	X(旧Twitter)アカウント(2019年10月～) およびYouTubeチャンネル(2020年3月～)、Facebookページ(2021年4月～)、インスタグラム(開設予定)を通じた情報発信を行う。

(3) 普及啓発

項 目	参加者目標数	目的・内容
「韓国 手仕事の美事」関連イベント	—	韓国絵本の読み聞かせ会、衣装体験などを実施する。
近隣企業との連携	—	横浜中華街や日本大通りの店舗とタイアップし、広報活動の充実と連携企画を実施していく。

(4) 集客イベント事業

項 目	内 容
ミニコンサート、大道芸 横浜開港資料館・横浜都市発展記念館との連携事業	横浜の秋の風物詩として定着しつつある「横浜スタチュー・ミュージアム」をスタチューパフォーマンス協会の協力のもとで開催する。
ハマフェスY167 横浜開港資料館・横浜都市発展記念館との連携事業	5月末に関内・日本大通り・中華街・元町で大規模に開催されるイベントに参加し、横浜開港資料館、日本大通り、山下公園通りなどを会場に、小規模な横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを開催する。

「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日に無料開館し、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施する。
開館祭	都市発展記念館との連携事業として、3月15日の開館日前後に全館無料の感謝イベントを実施し、市民サービスを供する。
近隣イベントへの参加	日本大通りなどで開催されるイベントに参加し、当館の認知度アップと集客に努める。

#### (5) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの協働	従来のワークショップ・各種イベント等に加え、市民ボランティアが幅広く館活動に協働で参加できるように検討・試行を行う。

#### (6) 近隣施設との連携

項 目	目的・内容
新聞博物館・放送ライブラリーとの連携	隣接する横浜情報文化センター内の新聞博物館・放送ライブラリーと、広報やイベントなどの事業連携をおこない、来館者の相乗効果を図る。
日本大通りエリアマネジメント協議会・山下公園通り会への参加	日本大通り界隈の事業者が加盟する日本大通りエリアマネジメント協議会と山下公園通り沿いの事業者が加盟する山下公園通り会の事業に参加し、日本大通りおよび山下町周辺の賑わい創出および横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館への観光客の誘致を図る。
横浜中華街発展会協同組合との連携	横浜ユーラシアスタチュー・ミュージアムの実施、出張展示、横浜春節祭への参加などを行い、観光客の誘致を図る。
なか区ブックフェスタへの参加	中区の図書館やブックカフェなどが主体となり、10～11月に行われる読書関連イベントに参加し当館の周知を図る。

#### (7) 学校連携・大学連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	小学校団体の見学利用を推進する。モンゴル童話（2年生国語科単元）の時代的・社会的な背景や吉田新田とその後の発展（4年生社会科単元）を素材とする学校との連携。歴史関係で小・中学校との連携も行っていく。
スーホキットの貸出	モンゴル文化を体験できるように、モンゴル衣装と馬頭琴のキットを小学校等に貸出する。
教員向け研修の企画	小学校の授業内容に則した教員対象の研修を企画、実施する。
大学教育との連携	大学所属の研究者と協働し、講義などに合わせた形で事業を実施する。

#### (8) 広報出版・情報発信

項 目	内 容
出版物発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要14号の発行。PDFによるOnline発行・公開。</li> <li>・館報「News from EurAsia 横浜ユーラシア文化館ニュース」の発行。</li> </ul>
リーフレット類作成・配布	横浜ユーラシア文化館案内パンフレットを配布し、催し物案内を作成・配布する。
ホームページの運営	ホームページでの最新情報、展示内容、資料解説、イベント等の案内、および、資料データベースの拡充、OPAC検索、全国漢籍データベースへのリンク。 <b>紀要のバックナンバーをPDFで公開。</b>
メールニュース配信	最新情報を確実に提供するため、登録された希望者にメールニュースを配信する。
その他の広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットでの施設案内</li> <li>・SNS（Twitter等）による情報発信</li> <li>・テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内</li> <li>・フィルムコミッションへ積極的に協力し、当館を撮影場所としてPR</li> <li>・タウン情報誌、旅行情報誌への施設案内掲載</li> <li>・市内観光案内所、観光施設へのチラシ訪問配布</li> <li>・スタンプラリー等による集客</li> </ul>
市民ニーズの把握	実施事業でアンケートを行い、満足度調査と協働に対する市民ニーズの把握を行う。
学校連携事業	財団エデュケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、教員、生徒に向けた情報発信を行う。

#### (9) 実習生・研修生の受け入れ

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。6名程度。
社会研修	大学のインターンシップなどの受入。
職場体験	市内中学生の職場体験の受入。
大学学外研修	東洋史専攻の学生などを対象に、大学のカリキュラムに則した形の学外実習を受け入れていく。

## 5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

### (1) 収蔵資料等データ入力

各施設の収蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化を図る。

### (2) ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

ホームページアクセス目標件数 100,000件

## 6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

これまでと同様、適正な施設・設備の維持管理を行います。

老朽化した高電圧機器や給水・排水設備への対応等、設備の維持管理上の課題については、横浜市教育委員会・横浜市建築局と調整のうえ、適切に対処していきます。また、館内の温湿度管理や清掃、環境調査等を適正に行うことで、収蔵資料の適切な保管環境を維持します。

## 7 収益事業（定款第4条第2項）

### （1）ミュージアムショップの経営

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

立ち上げたオンラインショップとSNS(Twitter・YouTube)を連動させ相互の閲覧を促進させるとともに、収益の向上を図ってゆく。

### （2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

## 6 三殿台考古館事業

### [取組の全体像]

国指定史跡の三殿台遺跡は学術的価値が高いだけでなく、市民が参加する発掘調査の先駆けとしても全国的に知られています。発掘調査から 60 余年が経過し、市民ボランティアが中心となって、出土品の再整理や記録類のデジタルデータ化をすすめています。またボランティアガイドとして遺跡の案内・解説をおこなう事業にもご協力いただいております。当館はこれらの活動をつうじて、遺構や出土品等を適切に保存・管理し、公開・継承するための拠点としての役割も担っています。

令和 8 年度は三殿台考古館が開館 60 年を迎えることから、これを記念して周年事業を計画します。考古館での企画展示をはじめ横浜市歴史博物館など財団他施設との**一体的な事業とします**。また磯子区役所および区内の他施設など財団外部での展示やイベントをつうじて、より**広く多くの方に三殿台遺跡と考古館のあゆみを認知していただきます**。

学校教育へも大きく関わっています。小学校の社会科見学ではただ見るだけでなく、実物の出土品に触れ体験することで子どもたちに興味と満足感を得てもらうなど、歴史学習により効果的な素材を提供しています。また課外活動・校外活動や、中学校の職場体験の場としても活用されています。

学校以外でも広い年齢層を対象に、夏のミストシャワー・秋のどんぐり拾い・冬の夜景観賞など、年間を通して来館のきっかけとなる仕掛けを考えていきます。三殿台はフオークデュオゆずの聖地のひとつとして知られており、巡礼に訪れる多くの「ゆずっこ」へのサービスも行っています。

地区センター・コミュニティハウスの事業への協力など、地域・他館との連携を進め、地域の活性化にも貢献します。

当館の活動についてはホームページ・財団メルマガ・SNSなどを駆使し情報発信するとともに、**新たにニュースペーパーの発行を計画します**。また外部メディアへ積極的に情報提供をして施設の魅力を伝えてもらいます。

施設維持関係では、職員による日常清掃をはじめ、草刈り・樹木剪定などを定期的に行います。特に樹木については老木・大木化しており、災害に繋がらないよう計画的に剪定を行っています。施設は経年による老朽化が著しいですが、毎日の清掃など日常管理のほか恒常的に修繕を行い、来館者が満足できる環境を提供していきます。

### 1. 資料収集保管事業・調査研究事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号①)

#### (1) 保管資料再整備事業

##### (ア) 出土品保管再整備事業

調査後収蔵されたままになっている出土品について再整理をおこない、遺物の補修・着彩や新たな復元等を継続し、資料の保全と活用を図ります。また三殿台および近隣遺跡以外の資料を他施設で保管することで、三殿台遺跡関係資料を保管するスペースを確保し、保管状況を改善します。

##### (イ) 記録資料のデジタル化事業

調査後 65 年を経て劣化が著しい記録資料の保存と活用を図るため、写真や測量図面のデジタル

データ化を実施します。整理後、災害による滅失に備えるためデータを横浜市歴史博物館と埋蔵文化財センターに分散保管します。本年度も劣化が著しい写真資料を優先し、記録資料のデジタル化を継続します。

## (2) 調査研究事業

### (ア) 三殿台遺跡出土品の資料化

三殿台遺跡出土資料のうち、現在は弥生時代中期後葉の遺物と遺構について市民ボランティアの協力を得て再整理を継続します。

### (イ) 遺構分布の復元

個別の遺構原図より住居跡等の遺構の位置を復元し、遺跡全体図を再構築します。

### (ウ) 三殿台考古館収蔵資料の活用

館収蔵資料を展示等で公開するほか、貸出し等も行います。また、土器作り体験学習などのモデル資料として活用します。

## 2. 常設展事業 (定款第4条第1項第1号②)

### (1) 常設展事業

常設展示室の維持管理を適切に行うとともに、三殿台遺跡の原始～古代の歴史を来館者の求めに応じて柔軟で理解しやすく解説することに努めます。

制約されたスペースのなかで、可能な限り展示品に補助的なイラスト・資料を加え、歴史の理解がより深まるよう工夫をします。開館60周年にあたる令和8年度を迎え、展示品の更新を検討し来館者が見やすい展示を検討します。

### (2) 露出展示遺構保全事業

(ア) 住居保護棟内に露出展示されている、発掘後60余年を経た竪穴住居跡の適切な保全を図るため、日常的に保存状態を管理します。また文化財保存科学の専門業者に委託し、定期的なメンテナンスを実施しています。

(イ) 劣化の著しい古墳時代住居をはじめとする復元住居の清掃等日常管理のほか、茅屋根・石畳や擬木柵等の補修を実施していきます。

## 3. 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

### (1) 企画普及

項目	目的・内容
開館60周年関連事業	令和9年1月に開館60周年を迎えるにあたり、磯子区民ギャラリーや歴博などで記念展示を実施します。また関連イベントや外部施設でのパネル展など周知事業を計画します。
「いそっぴGW2026 スタンプラリー」への参加	磯子区の市民利用施設が連携して行うゴールデンウィーク企画事業に参加します。(開催期間：4/26～5/6)

整理ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋蔵文化財に関心ある市民にボランティアとして整理作業に参加してもらい、接合・復元、修復作業を市民協働で実施します。</li> <li>・埋蔵文化財修復方法を体得してもらうとともに、市民の生涯学習意欲を促進します。</li> <li>・体験学習の実施にあたり協力を得ます。</li> </ul>
ガイドボランティア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋蔵文化財に関心ある市民にボランティアとして来館者へのガイドに協力してもらい、三殿台遺跡の解説を市民協働で実施します。</li> <li>・体験学習の実施にあたり協力を得ます。</li> </ul>
一般団体見学の受入れ	歴史グループやウォーキンググループなど一般の団体見学に対して、解説・案内を希望により受け付けています。
他施設との連携	地区センター・コミュニティハウス等外部施設の事業に講師を派遣するなどの協力をします。
関係団体との連携	<p>全国埋蔵文化財法人連絡協議会関東ブロック協議会が主催する「関東考古学フェア」のスタンプラリーに協力・参加します。</p> <p>全国の弥生時代に関連する施設が取り組む「弥生の御朱印巡り」に参加します。</p>
インターネットによる広報	随時ホームページやX・インスタ等 SNS を更新し最新情報を広報します。また WEB 媒体のイベント案内へも情報を提供します。
その他の広報	<p>(ア) 年間の体験学習等の催し物案内を作成し、配架するとともにホームページで周知します。</p> <p>(イ) テレビ・ラジオ等放送媒体に施設の情報を提供します。</p> <p>(ウ) 新聞やタウン紙、市広報紙等紙媒体で施設の案内をします。</p> <p>(エ) 館リーフレットを近隣施設に配架します。</p>

## (2) 体験学習

項 目	目 的 ・ 内 容
ゴールデンウィーク イベント 体験教室	<p>ゴールデンウィークに実施する子どもおよび親子向けの体験教室 「いそっぴゴールデンウィーク 2026」期間中に実施</p> <p>①5/3 古代人体験教室 ②5/4 勾玉作り教室 ③5/5 石器作り教室</p>
弓矢うち大会	<p>弓矢うち体験で練習した成果を大会で発揮してもらいます。</p> <p>春・秋・冬の年3回実施</p>
横浜開港記念日イベント	6月2日の横浜開港記念日に子ども向けの火起こし体験教室を実施。
キャンプ in 三殿台	こどもの夏休み期間に合わせ、国指定史跡の三殿台にテントを張り家族で一晩過ごして、弓矢うちや火起こしなど古代人の生活を体感してもらいます。
勾玉作り体験教室	古代のアクセサリー・勾玉を作製します。

土器作り体験教室	小学生を対象として縄文土器を作製します。乾燥後に野焼きで焼き上げます。
土偶作り体験教室	小学生を対象として縄文時代の土偶を作製します。乾燥後に野焼きで焼き上げます。
土器作り教室	中学生以上を対象に、本物の縄文・弥生土器をモデルにして土器を作製します。甕や壺など希望の土器を作ってもらいます。
石器作り体験教室	黒曜石で縄文時代の石鏃を作製します。
火起こし体験	火起こし体験を随時受け付けます。
勾玉作り体験	5名以上の団体を対象に事前に予約していただきます。
弓矢打ち体験	常時無料で体験できます。



キャンプ in 三殿台



弓矢うち大会



石器作り体験教室

### (3) グッズ制作

項目	目的・内容
缶バッジの販売	三殿台考古館オリジナル缶バッジを販売します。
土器片ペンダントの製作・販売	ボランティア活動の一環として製作し販売します。
勾玉作りキットの製作・販売 (青田石、滑石)	勾玉作りキットを製作し販売します。販売時に埋蔵文化財センターの勾玉づくり動画を紹介し、作り方のサポートをします。

### (4) 学校連携

項目	目的・内容
学校団体見学の受入れ	小・中・高・大学による社会科見学を随時受け入れます。 ※幼稚園・保育園の団体利用も受け入れます。
職業体験・職業インタビュー	中学生の職業体験・職業インタビューを受け入れ、キャリア教育を積極的に支援します。
授業づくり支援	総合的な学習の時間等の授業づくりを支援します。6年生の遺跡見学以外にも各学年の学習のサポートをしていきます。

## 4. 施設維持事業 (定款第4条第1項第1号③)

### (1) 三殿台考古館の管理

#### (ア) 経常的な維持管理

施設内の清掃や復元住居の清掃を毎日行うほか、展示室・展示ケース・保護棟のガラス清掃な

どを実施しています。また専門家による露出展示保護棟のメンテナンスを定期的に行い、遺構の保全に努めています。

敷地の草刈りと樹木剪定については職員で定期的に行っているほか、年に数回専門業者に委託しています。樹木は老木化・朽木化が進んでおり、倒木の恐れのある樹木については伐採するなど周囲に被害を出さぬよう管理します。

擁壁や階段・石畳など劣化が著しい部分を補修し、施設の保全に努めています。復元住居の保守点検や茅屋根の補修などを、市民ボランティアの協力を得て実施します。

昨年度まで磯子区役所と連携して取り組んできたグリーンカーテンを館単独で継続し、地球温暖化対策に貢献します。

#### (イ) 開館時間の拡大

4～9月の期間は開館時間を9時から17時までに延長します。(10月～3月は16時閉館)

また、ダイヤモンド富士(9月・3月)や夜景を見る会(12月)の期間は開館時間を延長し、来館者に三殿台の別の魅力を味わっていただきます。

#### (ウ) バリアフリー化の実現

車椅子やベビーカーに対応するためのスロープの設置など、バリアフリー化について引き続き設置者と検討・協議を行っていきます。

### (2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、敷地内に自動販売機を設置し飲料を販売します。

### (3) その他

#### (ア) 他館との連携

項目	目的・内容
君も今日から考古学者-横浜発掘物語 2026-	横浜市歴史博物館が開催する企画展に、三殿台遺跡出土の資料を貸し出します。
<b>開館 60 周年関連事業</b>	<b>考古館開館60周年を記念して横浜市歴史博物館と協働で記念展示を実施します。</b>

#### (イ) 賑わいの創出

項目	目的・内容
ミストシャワーの設置	夏季の暑い時期に来館者が快適に過ごせるよう、ミストシャワーを今年度も継続して設置します。
どんぐり拾い	来館する園児や児童の協力でどんぐりを拾い集めてもらいます。落果の時期に、近隣の幼稚園・保育園を中心にチラシを送付してお知らせします。集めたどんぐりは「奈良の鹿愛護会」へ送り、鹿の餌として活用されます。
ダイヤモンド富士を見る会 夜景を見る会	ダイヤモンド富士や夜景の鑑賞会を開催し、眺望のよい三殿台ならではの魅力を発信します。この期間は閉館時刻を延長します。 ・ダイヤモンド富士を見る会(秋:9/29・30、春:3/13・14) ・夜景を見る会(12/12・13)

ゆずファンへのサービス

地元出身のフォークデュオ・ゆずのファン（ゆずっこ）が聖地巡礼で訪れた際に解説やマップ配布などのサービスを提供します。



復元住居庇補修



復元住居柵破損補修



夜景観賞会

## IV 文化財業務委託事業

\*文化財業務委託事業については、令和8年度横浜市予算が議決され、その後、横浜市と委託契約が締結された場合、その内容に基づき実施するものです。そのため、この事業計画案では令和7年度の契約実績をもとに取組案を作成しています。

### 1 埋蔵文化財センター事業

#### 〔取組の全体像〕

埋蔵文化財センターでは、文化財保護法に基づき埋蔵文化財の発掘調査および出土品の整理をおこない、発掘調査報告書にまとめて刊行します。これらの調査・研究成果は普及事業に活用します。また、令和8年度からの指定管理施設の目標である「5館一体」の体現に向けて、支援組織としての埋蔵文化財センターは横浜市歴史博物館・横浜市三殿台考古館などの指定管理施設の調査研究・普及事業を積極的に支援していきます。

発掘・資料整理事業として、港北ニュータウン開発事業に伴う出土品や記録資料の整理作業については令和5年度より体制を強化し、令和8年度もその体制を維持します。また、大規模開発に伴う発掘事業を引き続き安定して行えるよう、発掘調査体制も維持します。特に近年実施してきた大規模発掘調査後の整理・報告書刊行事業もスタートする時期であり、膨大な出土資料の図化作業に対応するため、最新のデジタル技術を積極的に導入・活用します。

さらにこれまで蓄積してきた埋蔵文化財調査の知識と経験・技術や適正な設計のノウハウをもとに、今後も業務を安定的に受託できるよう積算に関する職員のスキルアップを引き続き行います。

資料収集・保管・整理事業では、補助金を活用しての資料保管再整備作業は令和7年度を以って一旦一区切りとなりましたが、引き続き市教育委員会と連携してこれらの問題に対処していきます。

普及事業としては、埋蔵文化財センターの調査・研究の成果を市民に還元し、埋蔵文化財保護への関心を高めるため展示・講演会等を開催します。令和8年度は、令和6年度に報告書を刊行した県内唯一の製鉄遺跡である栄区上郷深田遺跡について、栄区役所と連携して展示を行い、また関連する講演会も開催する予定です。また同展示のプレ事業として、横浜市歴史博物館にて同館の展示と連携してミニ展示を開催します。さらに栄区内地区センター等の区民利用施設でも巡回展示を行う予定です。展示・講演会・刊行物の案内等の最新情報については、引き続き広報紙・ホームページ・Xでの情報発信を行います。

学校連携については、前年度に引き続き小学校施設見学・中学校職場体験を積極的に受入れ、さらに高校生・大学生からの考古学に関する問い合わせや調査研究への支援対応を行います。

老朽化が進む埋蔵文化財センターの建物について、近年不具合が多く発生しています。令和7年度も引き続き市教育委員会と連携しつつ迅速に修繕等の対応を行い、施設を適切に維持・管理していきます。

## 1 埋蔵文化財整備事業（定款第4条第1項第1号①）

港北ニュータウン開発や市内公共事業に伴う発掘調査の出土品・写真・測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめます。また、劣化の進む写真資料や測量図等のデジタル化、出土品保管状況の改善事業を実施します。

### （1）遺物整理・調査研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
神隠丸山遺跡の整理 （8／8年次）	神隠丸山遺跡（都筑区早瀬一丁目所在）は、縄文時代中期・後期の良好な環状集落であり、港北ニュータウン遺跡群を代表する集落遺跡である。資料整理を行い、各時期の様相を明らかにし、集落構造の理解及び当該地域における遺跡群の様相の把握をめざす。	『縄文時代中期編』の基礎整理がほぼ終了し、今年度は報告書刊行に向けて編集作業・考察の執筆を行う。
矢崎山遺跡の整理 （2／5年次）	矢崎山遺跡（荏田南町所在）は、カマド成立期の古墳時代集落や横穴墓群などが確認されており、港北ニュータウンを代表する遺跡である。資料整理を行い、各時期の様相を明らかにし、当該地域における遺跡群の様相の把握をめざす。	出土遺物の接合や復元といった基礎整理を行う。また、遺構図面についてはトレース作業を行う。
殿森遺跡の整理 （1／3年次）	殿森遺跡（都筑区加賀原一丁目24付近）は、弥生時代後期の小集落遺跡で、横浜西部における中部高地系集団の実態を探るうえで貴重な遺跡である。また、縄文早期の炉穴・落とし穴も存在している。資料整理を行い、3年次で報告書を刊行する。	発掘時の記録類の確認、台帳類の作成・整備、遺物の基礎整理などを行う。

### （2）報告書発行

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
神隠丸山遺跡Ⅳ 縄文時代中期編	神隠丸山遺跡の最後の報告書となる縄文時代中期編の報告書刊行を行う。	報告書を刊行する。

### （3）資料収集・保管・整理

項 目	目的・内容
記録資料デジタル化	劣化の進む写真・測量図等の資料をデジタル化し記録の整理と保存を行う。写真資料については、普及啓発・資料貸出などの利便性向上にも資する。

出土品等保管再整備	収蔵資料の再整理を行い、収蔵スペース及び保管状況の改善をはかる。また、令和4年度より、横浜市教育委員会生涯学習文化財課より委託を受け、資料のより効率的な管理と活用の推進を図るため、収蔵資料の内容確認・仕分け・台帳作成等の保管整備事業を開始しており、令和7年度も実施する予定。
移管・寄贈資料の管理	民間調査組織等より横浜市へ移管された、あるいは市民から寄贈された資料を適切に管理・保管する。また、令和4年度より、デジタル媒体による発掘調査記録類の移管とデータ保管・管理への対応の検討を開始しており、令和7年度も引き続き検討する。
図書等の収集・受入れ・整備	図書資料等の収集・受入れ・整理・管理などを行い、市民の利用に供する。また、令和4年度より、図書管理システムへの管理方法移行を前提としたデータ作成を行っており、令和7年度も継続する。
資料の貸出し	写真データなどの複製資料、土器・石器などの出土資料等の外部機関への貸出しを行う。



出土品整理作業（土器復元）



出土品保管再整備作業



図書等の収集・受入れ・整備

## 2 普及啓発事業（定款第4条第1項第1号②）

発掘調査の成果を、展示の開催や広報紙・Webでの情報発信等とおして市民に公開していきます。

項目	目的・内容
企画展「横浜の遺跡展」 ・講座「横浜の考古学」 令和8年10月7日（火）～ 10月18日（日）（予定）	「(仮) 栄区の古代遺跡」 会場：栄区民文化センター リリス *神奈川県内唯一の古代製鉄遺跡「上郷深田遺跡」の報告書刊行を祈念して、栄区の古墳時代後半期から古代にかけての遺跡を紹介する展示・講演会を行う。展示は栄区政40周年を記念して栄区役所と合同で実施する。
常設展示、エントランス展示	常設展示室を引き続き整備・運営し、市民に横浜の埋蔵文化財を分かりやすく伝える。エントランス展示では、遺跡展や報告書等でとりあげた市内遺跡の紹介を行い、身近にある遺跡への関心を高める。
外部施設における資料の展示等	図書館・区民文化センター等の公共施設で、地域に関連する出土品等の貸出し・展示・解説を行う。

講師等派遣	外部団体の主催する講演会やイベント等へ専門職員を派遣。
広報紙の発行	市内の埋蔵文化財を紹介する広報紙「埋文よこはま」を年2回発行する（発行10,000部）。
Webでの情報発信	イベントや最新ニュースなどの情報をHPやX(旧Twitter)等でタイムリーに発信し、報告書等刊行物の通販を行う。
学校対応	近隣学校の総合学習・展示室見学や、職場体験等を受け入れる。また、出土資料を活用し、主に小学校を対象に出前授業を行う。
見学者・レファレンス・研修室利用対応	埋蔵文化財センターに来館した市民や電話・Web等での問合せに対応する。また、研修室の利用申請を受け付け、無料で一般利用団体に貸し出す。



横浜の遺跡展（都市発展記念館）



埋文センターエントランス展示

### 3 発掘調査事業（定款第4条第1項第1号①）

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し報告書を刊行する業務を受託します。

#### (1) 発掘調査（予定）

項目	予定件数
試掘調査	0件
本発掘調査	1件

#### (2) 整理報告

項目	目的と内容	今年度の成果目標
旧上瀬谷通信施設関連遺跡群調査報告書（2／4年次）	これまで行ってきた上瀬谷通信施設地区埋蔵文化財調査の整理作業を行う予定。	令和8年度は報告書作成に向けた基礎整理を行う予定。

#### (3) 調査研究

項目	目的と内容	今年度の成果目標
旧上瀬谷通信施設関連遺跡群の調査研究	近年、発掘調査を実施した旧上瀬谷通信施設関連遺跡群について、主に旧日本軍の軍事施設の構築方法の研究を行い、その構築方法の多様性と施設機能の関連について研究を	旧上瀬谷通信施設関連遺跡群の旧日本海軍施設について、埋蔵文化財調査記録と文献資料、空中写真との比較から明らかにする。

	行い、発掘調査に活かす。	
--	--------------	--

(4) 積算基準の見直し等

- ・積算基準の改良作業を引き続き行います。
- ・埋蔵文化財センター職員の積算に関する知識・技術の向上を目指し、研修を実施します。

**4 連携事業（定款第4条第1項第1号②）**

財団他施設や他研究機関との連携事業を実施します。

項 目	目的・内容	今年度の達成目標
お城E X P Oへの出展	毎年12月にパシフィコ横浜で開催されるお城E X P Oに、横浜市歴史博物館と連携して出展する。	令和5年度刊行「小机城跡試掘調査」報告書等の販売を行い、ブース内パネル展示への動線確保、展示資料の説明を加えて見学者を増加させる。
古代製鉄に関連する研究	令和6年度に報告書を刊行した上郷深田古代製鉄遺跡の展示を令和8年度秋に行う予定のため、展示に向けて古代製鉄業の研究を歴史博物館と共同で行い、その成果の一部を歴史博物館の「君も今日から考古学者」展に活用する。	報告書の成果をもとに、広く東国の古代製鉄遺跡の調査研究成果を集成し、上郷深田遺跡の位置づけを考える。



お城 EXPO への出展



栄区上郷深田遺跡の古代製鉄炉

**5 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）**

埋蔵文化財センターの施設維持を適切に行います。

項 目	目的・内容	今年度の目標
施設の日常管理・簡易修繕の実施	老朽化した施設の維持・保全のため随時点検を実施し、不具合の際は文化財課への相談及び早期対応を行う。	収蔵室の環境維持のため換気扇等の撤去工事、空調設置等を行う。植栽管理等を適切に行い、施設等の破損・故障等の場合には早期対応・簡易修繕を実施する。



敷地草刈

## 2 史跡等管理事業

### [取組の全体像]

八聖殿郷土資料館を維持・管理し、漁具や農具を中心とした収蔵資料の公開や、地域住民や近隣小中学校への普及事業を行います。また、国指定史跡称名寺境内等の史跡管理を行います。

### 1 八聖殿郷土資料館事業（定款第4条第1項第1号）

横浜市の歴史・文化財関連施設である八聖殿郷土資料館施設の維持管理を行うとともに、展示・収蔵資料の管理・活用や見学者への資料解説等を行います。

項目	所在地	目的・意図
横浜市八聖殿郷土資料館	中区本牧町 76-1	市民が安全に利用できるよう、昭和8年建造の施設の維持・管理や敷地内の環境整備を行います。また、施設収蔵資料の展示や資料の貸出のほか周辺地域との連携事業等を実施します。

### 2 史跡管理事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜市の文化財である、国指定史跡称名寺境内、県指定史跡稲荷前古墳群・県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群・上行寺東遺跡復元整備地の維持管理を行います。

管理対象施設等	所在地
国指定史跡 称名寺境内	所在地：金沢区金沢町 212
県指定史跡 稲荷前古墳群	所在地：青葉区大場町
県指定史跡 市ヶ尾横穴古墳群	所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	所在地：金沢区六浦二丁目

